

設置の趣旨等を記載した書類

目次

1. 設置の趣旨及び必要性	1
2. 学部・学科等の特色	4
3. 学部・学科等の名称及び学位の名称	5
4. 教育課程の編成の考え方及び特色	5
5. 教育方法, 履修指導方法及び卒業要件	9
6. 編入学定員を設定する場合の具体的計画	14
7. 実習の具体的計画	14
8. 企業実習 (インターンシップを含む) や海外語学研修等の 学外実習を実施する場合の具体的計画	16
9. 取得可能な資格	17
10. 入学者選抜の概要	21
11. 教員組織の編制の考え方及び特色	25
12. 施設, 設備等の整備計画	26
13. 管理運営	28
14. 自己点検・評価	29
15. 情報の公表	30
16. 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等	31
17. 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制	32

設置の趣旨等を記載した書類-

1. 設置の趣旨及び必要性

(1) 学校法人及び大学の人材育成の目的・目標

1) 建学の精神と教育理念

学校法人八戸工業大学の建学の精神は「正己以格物」である。これは、物の道理をよく見極め、広く知識を求め、社会における自己の役割を認識し、高い倫理性をもって行動することを意味している。また、八戸工業大学の教育理念（基本理念）は「良き技術は、良き人格から生まれる」であり、高度な専門技術とともに豊かな人間性と総合的な判断力をもつ技術者を育成することである。

2) 大学・工学部の目的及びディプロマ・ポリシー

本学の教育理念及び目的は、学則第1章第1条に次のように明記されている。

「本学は、「良き技術は、良き人格から生まれる」を教育理念とし、学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学術を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させ、あわせて人類の幸福を希求する科学技術の振興と文化の創造並びに地域社会の発展に寄与することを目的とする。」

また、全学のディプロマ・ポリシーを以下のように定めている。

「八戸工業大学は、良き技術は、良き人格から生まれる」という教育理念を掲げています。これは、「良き職業人となるためには、高度な専門知識とともに豊かな人間性と総合的な判断力をもつ」ことが必要であることを意味しています。本学は、この理念を踏まえた教育目標に基づく所定の教育課程を修め、以下の資質・能力が身についた学生に学士の学位を授与します。

1. 豊かな人間性と総合的な判断力
2. 社会の変化に対応できる柔軟な思考力
3. 専門分野の基礎原理の理解と高度応用展開力
4. 地域社会への関心をもちグローバルな視野で物事を考える姿勢」

さらに、工学部の教育研究上の目的は、学則第2章第3条2項に次のように明記されている。

「豊かな人間性と総合的な判断力をもった人材、社会の変化に対応できる柔軟な思考力をもった人材、工学の基礎原理を踏まえ高度な応用展開能力をもった人材、及び地域社会への関心とともにグローバルな視野をもった人材を育成するとともに、機械、電気・電子・通信、建築・土木、情報、生命・環境、原子力、ロボット及び海洋等の工学・科学に関する教育研究の実施と成果の公表を通じて社会の発展に貢献すること」

そして、工学部のディプロマ・ポリシーを以下のように定めている。

「工学部では、所定の教育課程を修め、以下の資質・能力を身につけたと認められる学生に対し、「学士（工学）」の学位を授与します。

1. 豊かな人間性と総合的な判断力を基盤とする工学の素養
2. 社会の変化に対応できる柔軟な思考力
3. 工学基礎原理の理解とそれらの高度応用展開力
4. 地域社会への関心をもつとともにグローバルな視野で物事を考えることができる力」

（２）工学科設置の必要性

1) 設置の背景

本学は1972年に、地域の産業界において指導的役割を担う高度な技術者を養成することを目的に工学部を設置して開学した。以来、工業技術の発展と地域からの強い要請を受けて学科を増設し、現在は機械工学科、電気電子工学科、システム情報工学科、生命環境科学科、土木建築工学科の5学科が開設されている。また、日本技術者教育認定機構（JABEE）の受審（2002年度～）や日本高等教育評価機構（JIHEE）による機関別認証評価（2006年度～）、さらに2014年度には文部科学省の「大学教育再生加速プログラム（テーマⅡ：学修成果の可視化）」に採択される等、大学の自己点検・教育改善活動にも積極的に取り組んできた。

近年、わが国においては、少子高齢化の急速な進行による労働人口の大幅な減少と、産業構造のグローバル化の進展にともない、持続可能な社会を構築するための技術革新が求められている。さらに、Society 5.0をはじめとした高度な情報通信社会の到来によって、科学・技術分野がシームレスに融合するとともに、著しく高度化してきている。これらの技術革新は、地域社会においてもその産業構造と雇用環境を大きく変化させようとしている。本学では、こうした社会変化に対処しうる技術者を養成するため、工学部を従来の5学科編成から1学部1学科へ改編し「工学科」を設置するものである。

一方、青森県を中心とした北東北地域には、鉄鋼・非鉄金属、製紙、化学等の基礎素材型産業、半導体製造装置、情報通信機器、自動車・航空機、ソフトウェア等のハイテク産業が集積している。また、青森県の下北地域では原子力関連施設、大規模風力発電所等が立地し、国内有数のエネルギー産業の拠点が形成されつつある。さらに、これらの地域は、農林・水産・畜産等の一次産業が盛んな地域でもあり、それらの食品加工の工場群も広範囲に分布している。これらの産業・経済活動、並びに生活の基盤となる社会インフラ施設等の整備が計画的に進められているが、全国的に見て未だその水準は低いといえる。このことから、地域の社会インフラの整備・維持管理や自然災害に対する防災・減災の役割を担う土木・建築分野も不可欠な基幹産業となっている。

このような社会的背景から、当該地域において科学・工業技術の発展・普及のため

の人材育成は依然として急務であり、そのための体系的で専門的な工学教育の充実に対する地域社会からの期待は大きい。本学では、こうした地域社会の変化や産業の高度化にも積極的かつ柔軟に対応できるよう工学部を1学部1学科に改組するとともに、従来の5学科をベースとした機械工学、電気電子通信工学、システム情報工学、生命環境科学、建築・土木工学の各履修コースを開設することとした。

2) 工学科の目的及びディプロマ・ポリシー

工学科の教育研究上の目的は、学則第2章第3条3項に次のように明記されている。

「多様化した社会ニーズに対応するため、広い視野と教養、倫理観、総合的な判断力及びコミュニケーション能力を持ち、情報リテラシーも含めた科学と工学の基礎知識、さらに社会の変化に柔軟に対処できる問題解決・応用展開能力を備えた技術者を育成するとともに、機械、電気電子通信、システム情報、生命環境、建築・土木のいずれかの専門分野、及び原子力、ロボット、海洋などの発展分野の教育研究の実施と成果の公表を通じて社会の発展に貢献すること」

そして、工学科のディプロマ・ポリシーを以下のように定めている。

「工学科では、機械工学、電気電子通信工学、システム情報工学、生命環境科学、建築・土木工学のいずれかの分野において所定の教育課程を修め、以下の資質・能力を身につけたと認められる学生に対し、「学士（工学）」の学位を授与します。

- (A) 社会人としての良識と倫理観、地域社会に対する理解ならびにグローバルな視野
- (B) 専門分野の基盤となる基礎知識とこれらを活用して社会の発展に貢献できる力
- (C) コミュニケーション能力と国際人としての姿勢
- (D) 基本的な専門知識と応用・展開力の素養
- (E) 実社会において実務に対処しうる課題解決能力・チームワーク力、自ら積極的・継続的に学んで行動する力
- (F) 北東北地域における科学技術の動向への関心

(3) 中心的な研究分野

設置する工学部工学科は、機械工学、電気電子通信工学、システム情報工学、生命環境科学、建築・土木工学の各専門分野（コース）で構成されている。工学科に配属される42名の専任教員は、従来の工学部5学科に所属しており、これまで培ってきた研究分野を中心として工学の基幹領域をカバーできる教育・研究体制を整えている。また、本学科では各分野における専門性の追究とともに、分野間での連携も重要であると考え、原子力工学、ロボット工学、海洋学等の分野横断型の発展プログラムを配置し、各専門分野の境界領域にも柔軟に教育・研究が展開されるよう配慮している。

(4) 教育研究上の数量的・具体的な到達目標

学修成果の達成度は、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力を具現化した複数の修得因子(①寛容な心、②感動する心、③主体性、④人間環境の理解力、⑤自己管理能力・ストレスコントロール力、⑥倫理観・規律性、⑦日本語コミュニケーション・スキル、⑧外国語コミュニケーション・スキル、⑨チームワーク力、⑩リーダーシップ力、⑪総合的学習経験・創造的思考力・創造力、⑫数量的スキル、⑬情報リテラシー力、⑭論理的思考力、⑮問題解決力、⑯専門基礎原理の理解力、⑰専門基礎原理の高度応用展開力、⑱継続的学習力、⑲市民としての社会的責任感、⑳異文化理解力)によって可視化するとともに、卒業時に各学生にディプロマ・サプリメントを発行して目標の達成度を通知する。加えて、大学院進学等を除き、就職希望者については就職率100%を目指す。

2. 学部・学科等の特色

本学科は、北東北唯一の工科系大学として、地域の工業分野を担う人材育成という社会からの要請に応える責務がある。そのために、工学科には地域の基幹産業と密接にかかわりを持つ機械工学、電気電子通信工学、システム情報工学、生命環境科学、建築・土木工学の5コースを開設する。履修上のコースにより専門的な領域は異なるものの、いずれのコースにおいても幅広い工学分野における包括的な理解を基礎とし、それぞれの分野における専門知識・技術を重点的に学習できることが大きな特色となっている。各コースの主な学習内容は以下の通りである。

- ・機械工学コース：材料力学および機械力学、熱力学および流体力学、情報および制御工学、材料および設計・加工学、自動車工学等について学習する。
- ・電気電子通信工学コース：電気エネルギーシステム、電子デバイス・システム制御、および情報・通信・メディア等について学習する。
- ・システム情報工学コース：マルチメディア、ネットワーク、セキュリティ、システム等の情報分野および情報関連分野等について学習する。
- ・生命環境科学コース：生命科学、食品科学、環境科学および化学工学等について学習する。
- ・建築・土木工学コース：建築設計や建築計画、建築環境、インテリアデザイン等の建築学、または社会基盤施設の計画・設計・施工・維持管理等の土木工学について学習する。

また、機械工学、電気電子通信工学、システム情報工学の各コースの発展プログラムとして原子力工学プログラムとロボット工学プログラムの科目群、生命環境科学と建築・土木工学の各コースの発展プログラムとして海洋学プログラムの科目群を、それぞれ配置することとしている。これにより、当該コースの専門分野の知識を核として分野横断的な学修を行うことができることも特色といえる。

さらに、現代の高度情報化社会において情報技術は一般生活に深く浸透しており、IoT

の推進により今後より一層あらゆるものの情報化が進むと予測される。特に労働人口の減少傾向が著しい地域社会においては、産業構造の効率的な転換や生産性向上等が求められており、その中で AI・データサイエンスや通信ネットワークも含めた情報技術の役割は極めて大きい。そこで、全学共通として、Society 5.0 に代表される新たな経済社会の実現に不可欠となる情報リテラシーと AI・データサイエンスの基礎を学ぶとともに、それらの知識を各専門分野へ応用・展開できるための技術者育成を目指すこととした。加えて、全学共通として、SDGs や地方活性化等の社会が抱える課題解決を担う人材を育成するため、地域への理解を深めるとともに、学部・学科の専門分野の地域的・学際的な役割やデザインの基礎についての学修、さらに BPL を通じて工学とデザインを融合させた共創教育を展開することとした。

本学工学部は開学以来、18,000 名を超える技術者を輩出している。その主な進路は建設業、製造業、電気・情報通信産業、専門・技術サービス業、教員、公務員等であり、北東北地域のみならず国内・海外で活躍している。本学は初年次から卒業までの一貫したキャリア教育を導入し、学生の特徴に応じた幅広い職業人の養成を推進してきた。また、学生の就職活動において教職協同による支援体制を推進することによって、近年、高い就職内定率（95%以上）を維持している。新たに設置される工学科においても、これまで築いてきたキャリア支援プログラムを展開することにより、充実した進路指導を行うことができる。

3. 学部・学科等の名称及び学位の名称

上述した学科の目的、ディプロマ・ポリシー及び特色より、学科の名称は「工学科」(Department of Engineering) とする。

また、学位の名称は「学士（工学）」(Bachelor of Engineering) とする。

4. 教育課程の編成の考え方及び特色

(1) 基本的な考え方

カリキュラムを、高校教育から大学教育に円滑に移行させキャリアデザインを支援するための「キャリア教育科目」、人間環境や社会に対して多面的な視野から物事を捉え総合的な判断ができる力を養う「総合教養科目」、AI 技術やデータサイエンス能力を養う「AI・データサイエンス科目」、地域社会と工学分野の包括的な理解並びに工学とデザインの分野を融合した学びを誘導する「共創教育科目」、工学の学問に必要な自然科学分野の基礎を幅広く養う「工学基礎科目」、各分野における専門基礎原理と実践的な応用能力を養う「専門科目」、地域産業の特色を反映した発展的な知識・技術を養う「工学発展科目」、高度な応用・展開能力を養う「特別専攻科目」で編成する。

(2) 教育課程の特色と養成する資質・能力

1) 総合的な人間力を養成する教育の実施

「キャリア教育科目」においては、初年次から3学年まで「キャリアデザインⅠ・Ⅱ・Ⅲ」を配置し、高大接続・社会接続を担う教育を実施する。また、ラーニング・ポートフォリオの作成を継続実施し、学修の振り返りによる自己省察の習慣づけを行う。

「総合教養科目」においては、人間科学分野、国際コミュニケーション分野、体育科学分野及び総合学際分野で構成し、学部・学科を問わないリベラルアーツを展開する。人間科学分野では「哲学」、「文学」、「歴史」、「経済学」等、国際コミュニケーション分野では日本語、英語及び中国語のコミュニケーション科目群、体育科学分野では「体育学」、「生涯スポーツ演習」等、総合学際分野では「主題別ゼミナールⅠ・Ⅱ」等の科目群を開講する。これにより、豊かな人間性を涵養し、柔軟な思考力や幅広い視野に立った理解力を養成する。

「共創教育科目」及び「専門科目」においても、課題解決型学習(PBL)、アクティブ・ラーニングなどの授業を展開し、豊かな人間性と総合的な判断力、主体性ならびに社会の変化に対応できる柔軟な思考力を養成する。

2) 高度な情報活用能力を育成する教育の実施

超スマート社会に対応するための情報リテラシーとAI技術・データサイエンスの基礎を学ぶため「AI・データサイエンス入門」や「データアナリティクスⅠ・Ⅱ」を共通科目として配置する。工学の「専門科目」においても情報技術を高度に利活用・展開するための力を養成する。

3) 地域社会との繋がりを重視した共創教育の実施

社会が抱える課題の解決のために、地域への理解を深めるとともに、学部・学科の専門分野の地域的・社会的な役割およびデザインの基礎について学ぶための科目として「工学概論」、「デザインと技術」、「北東北八戸の地域学」を配置する。また、「共創教育科目」では3学年に配置した「共創デザイン演習」において工学とデザインを融合した学修、さらに「専門科目」においても地域と連携したPBL、アクティブ・ラーニング教育を展開する。これにより、地域社会への関心と責任をもって物事を考えることができる能力を養成する。

4) 専門分野の基礎原理を理解・修得するための教育の実施

工学の専門分野を学ぶにあたって必要となる数学、物理、化学等の「工学基礎科目」を1学年から2学年にかけて重点的に配置する。また、工学科に配置されている機械工学、電気電子通信工学、システム情報工学、生命環境科学、建築・土木工学の5コースのいずれかの「専門科目」を学期ごとに体系的に学べるように編成する。専門基礎と演習を組み合わせた授業、専門基礎原理の繰り返し学習を取り入れた授業などを展開し、これにより専門分野の基礎原理を理解・修得させる教育を実施する。

5) 専門分野の基礎原理を実践的に応用展開できる力を養成する教育の実施

履修上の各コースには、実践的な力を養うために、少人数ゼミナール、実験・演習・実習科目を重点的かつ年次進行に応じて配置しているのが特色である。これらの科目を通じて、自ら考えて纏めたことを発表・表現する授業や、体験・気づき・省察サイクルを取り入れた授業を展開する。また、身につけた専門知識やスキルを統合し、論理的な課題解決を通じて新たな価値の創造に繋げていく能力や姿勢を育成するために、「卒業研究」を必修科目としている。また、これらの科目群によりチームワーク力やリーダーシップ力も養成することを目指している。

6) グローバルな視野で物事を考えることができる力を養成する教育の実施

学部・学科を問わない「総合教養科目」を中心に、「専門科目」においてもそれぞれの分野においてグローバルな視点での授業を展開する。これにより、異文化と多様性を理解しつつ、グローバルな視野で物事を考えることができる力を養成する。

7) 学修成果の可視化

学修成果の達成度は、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力を具現化した複数の修得因子（1.（4）参照）によって可視化し、学生が自ら確認できるようにする。

(3) 工学科のカリキュラム・ポリシー

工学科のカリキュラム・ポリシーを以下のように定めており、上述の学科の目的、ディプロマ・ポリシー、特色を具現化した教育課程を編成・実施している。

「工学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を備えた人材を育成するために、次のような教育課程編成・実施の方針を定めています。

1) 教育課程の骨格

カリキュラムを、「キャリア教育科目」、「総合教養科目」、「AI・データサイエンス科目」、「共創教育科目」、「工学基礎科目」、「専門科目」、「工学発展科目」、「特別専攻科目」で編成します。

2) 教育課程の編成

① キャリア教育科目：高校教育から大学教育への円滑な移行と将来のキャリアプランニング、さらに倫理観・規律性、社会的責任感を涵養するための科目を配置します。

② 総合教養科目：幅広い視野と教養、コミュニケーション・スキルを養うため人間科学、国際コミュニケーション、体育科学、総合学際 of 4 分野にわたる教養科目を配置します。

③ AI・データサイエンス科目：情報リテラシーを修得するとともに、AI 技術、データサイエンスの基礎力および実践・応用力について学ぶための科目を配置し

ます。

- ④ 共創教育科目：北東北を中心とした地域社会と工学分野の包括的な理解、ならびに工学とデザインの分野を融合した学びを誘導する科目を配置します。
- ⑤ 工学基礎科目：専門科目の学習に必要な数学、自然科学、実験に係わる科目を配置します。
- ⑥ 専門科目：機械工学、電気電子通信工学、システム情報工学、生命環境科学、建築・土木工学のいずれかの分野について基礎的な知識と学力を修得し、それらを応用・展開できる能力を修得することを目的に基礎分野と応用分野から構成される科目を配置します。さらに、企業などにおけるインターンシップ、より総合的な学習や特定領域における研究活動を行うための卒業研究を配置します。これらの科目群を通じて総合的な判断力や継続的な学習力、チームワーク力、リーダーシップ力、社会の変化に対応できる柔軟な思考力および課題解決能力を養成します。
- ⑦ 工学発展科目：工学分野の発展プログラムとして、原子力工学、ロボット工学、海洋学の各分野の科目群を配置します。
- ⑧ 特別専攻科目：少人数による分野横断型の教育を通して高度な応用・展開能力を修得することを目的として、解析、特別専攻プロジェクト、特別専攻ゼミナールの科目群を配置します。

3) 教育課程の実施

- ① 将来の進路や取得可能な資格の希望に応じて機械工学、電気電子通信工学、システム情報工学、生命環境科学、建築・土木工学の各コースが設けられ、2年進級時にコースを決定します。各コースには、その人材育成像に応じた履修プログラムとして修了要件を設定します。
- ② 必修科目・選択必修科目・選択科目を適切に配置し、技術者として必ず身につけるべき共通の素養と、自らの興味・関心に基づく多様な分野の知識をバランスよく修得できるよう配慮します。
- ③ 工学基礎科目・専門科目においては、理論・知識を学ぶための講義科目と、学んだ知識の習熟および課題発見力・解決力の醸成のための演習・実験科目を連携的・系統的に配置します。
- ④ 実験・実習・演習などの科目を通じて実践的な教育（PBL）を充実させ、講義で学んだ知識を活用し、さらに理解を深めて応用力を養うとともに、新たな課題を自ら発見し解決する課題解決能力を養成します。これらの科目の修得の過程で自己管理能力、チームワーク力、リーダーシップ力が身につくよう運営します。
- ⑤ 工学関連分野の横断的な学習を可能とするため、他のコースの専門科目も履修できるよう配慮します。
- ⑥ 学生の主体的・能動的な学びを促進するため、演習・実習科目はもとより講義

科目についてもアクティブ・ラーニングを積極的に導入します。

- ⑦ ネットワーク環境と IT ルームなどを充実させることで、大学での授業・教育に加えて、自宅での自律的な学習においても ICT 機器の積極的な利用を促進します。また、通常の授業でも視聴覚機器を積極的に活用し、理解度の向上に努めます。

4) 学修成果の評価

授業科目については、到達目標や成績評価の基準と具体的評価方法をシラバスに明示して学生に周知し、公正で厳格な成績評価を実施します。」

なお、学科のディプロマ・ポリシー（DP）と教育課程（科目区分）との主な関係は表1の通りである。

表1 学科 DP と教育課程（科目区分）との主な関係

教育課程 (科目区分)	学科 DP					
	(A)	(B)	(C)	(D)	(E)	(F)
キャリア教育科目	○					
総合教養科目	○		○			
AI・データサイエ ンス科目		○				
共創教育科目	○					○
工学基礎科目		○				
専門科目				○	○	○
工学発展科目				○		
特別専攻科目			○		○	

5. 教育方法，履修指導方法及び卒業要件

(1) 教育方法

1) コースの選択と決定

工学科では入学時に履修するコース（機械工学、電気電子通信工学、システム情報工学、生命環境科学、建築・土木工学）を選択する。また、1年前期及び後期の終了時にコースの変更希望調査を実施し、コース変更を可能とする。基本的には学生の希望に沿ったコース配属とするが、各コースの教育のキャパシティや質の確保を勘案し、受入れ人数の目安（表2）を大きく超える場合には、成績等により調整することがある。なお、コースは2年進級時に決定とする。

表2 コースの受入れ人数の目安

コース	受入れ人数の目安
機械工学	50
電気電子通信工学	40
システム情報工学	60
生命環境科学	40
建築・土木工学	60

2) 科目の配当年次と学年ごとの教育方法

① 1 学年

1年次の配当科目は、全コース共通となる「キャリア教育科目」、「総合教養科目」、「AI・データサイエンス科目」、「共創教育科目」及び「工学基礎科目」を配置している。これらの科目は主に講義及び演習形式で行う。初年次科目である「キャリアデザインⅠ」（必修科目）では、高校から大学へのスムーズな移行を目的に大学教育・自校の理解や社会で求められている資質・能力、履修登録及び学修成果の評価と振り返りの方法等を学ぶ。

「総合教養科目」の人間科学分野では「歴史」や「経済学」の選択科目を配置する。国際コミュニケーション分野では習熟度別の演習を通じてコミュニケーション・スキルだけでなくグローバルな視点も身につける。体育科学分野では「体育学」と「生涯スポーツ演習」の選択科目が配置されている。

情報リテラシーを身につけるため、全コースの必修科目として「基礎情報科学」を開講する。また、「AI・データサイエンス科目」では「AI・データサイエンス入門」（必修科目）を配置し、AI技術やデータサイエンスを日常の生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を身につける。

「共創教育科目」に配置されている「工学概論」及び「デザインと技術」（いずれも必修科目）の履修により、工学の幅広い専門分野の全体像と社会における役割・意義について理解を深めるとともに、コース変更・決定のための参考とする。

1学年の「工学基礎科目」では、数学、物理、化学等の基礎を効果的に身につけるための講義科目を配置する。また、物理と化学では実験科目も開講し、専門科目で必要となる実験スキルやレポート作成の素養を身につける。

② 2 学年

2学年の「キャリアデザインⅡ」（必修科目）では、専門教育への導入と職業理解を目的に自己理解、仕事理解、職場理解等を通じてキャリア形成の基本を涵養する。

「総合教養科目」及び「工学基礎科目」では、1学年で身につけた基礎をベースに応用科目を配置する。人間科学分野では「哲学」や「文学」の選択科目を開講する。国際コミュニケーション分野では、より実践的なコミュニケーション・スキル

を身につける。

「AI・データサイエンス科目」においても「データアナリティクスⅠ・Ⅱ」（選択科目）を開講し、統計分析ソフトやプログラミング言語を用いてAI技術・データサイエンスの活用方法を身につける。

2学年では各コースの基礎レベルに相当する専門科目（主に必修科目）が配置されている。講義科目で学んだ知識の定着と理解度向上を目的として、多くの演習科目や実験・実習科目が配置されている。さらに、「工学発展科目」を履修することにより、分野横断的な学習もできるよう配慮されている。

③ 3学年

3学年の「キャリアデザインⅢ」（必修科目）では、自己分析や企業研究等を段階的に実施し、卒業後の具体的な進路選択について考える機会とする。そして年度終盤から開始される就職活動の準備をする。

3学年では各コースの応用レベルに相当する専門科目が配置されている。将来の進路や資格取得、専門性等に応じて講義科目（主に選択科目）を履修する。また、PBLを取り入れた授業も重点的に展開され、自ら課題を発見し解決する能力や専門分野における実践力、チームワーク力、リーダーシップ力等を身につける。さらに、「工学発展科目」を履修することにより、分野横断的な学習も継続される。

④ 4学年

4学年に配置されている「卒業研究」（必修科目）では、学生が主体的に選択したテーマについて取り組み、それまでに身につけた知識と技術を総動員して研究活動を行い、4年間の学びの総仕上げを行う。

3) シラバスの作成

本学では全開講科目についてシラバスを作成し、学生に開示している。シラバスは全学統一の登録マニュアル【資料1】（参考「令和3年度版」）に従い、共通様式により作成される。シラバスは年度ごとの更新となる。シラバスには、ディプロマ・ポリシーと当該科目の関係や授業の到達目標、授業計画、成績評価の基準・方法、ナンバリングに加えて、授業要素（形態）や授業時間外学習の内容についても詳しく記載することとし、学生の学修の手引きともなっている。

(2) 履修指導方法

本学では、学則第26条において「学生は毎年度の初めに当該年度に履修しようとする授業科目を所定の手続きにより届け出なければならない」と定めている。学生は選択した履修上のコースの修了要件を満足するよう履修登録することとなる。また、大学設置基準第21条に規定されている単位制度の実質化を図るため、履修登録できる単位数の上限（CAP）を、前期開講科目24単位以内、後期開講科目24単位以内、かつ年間合計44単位までと履修規程【資料2】で定め、授業時間外学修時間の確保に努めて

いる。

本学科では、上位学年に進級するためのコース共通の要件として、修得単位数(表3)を履修規程【資料2】で定めている。また、履修するコースによっては、必修科目の単位数や特定科目の修得を進級要件として設定している。なお、進級した上位学年での単位数修得を円滑に行うため、当該学年で修得すべき単位数の目標値として目標単位数(表3)も示している。

表3 進級要件(修得単位数)と目標単位数

学年	進級要件 (修得単位数)	目標単位数
1 学年	2 5	3 5
2 学年	6 0	7 5
3 学年	1 0 0	1 1 5

(3) 卒業要件、履修モデル(コースの履修プログラム及び分野横断型プログラム)

学則第30条において、卒業に必要な修得単位数は別表第1及び履修規程に定める単位を含め124単位以上とすることが規定されている。卒業に必要な修得単位数は、表4のように科目区分・分野ごとに設けられている。

表4 卒業要件(学則別表第1)

科目区分・分野	修得単位数
キャリア教育科目	5 単位
総合教養科目	下記2分野の単位数を含み 1 8 単位以上
人間科学分野	6 単位以上
国際コミュニケーション分野	8 単位以上
AI・データサイエンス科目	2 単位以上
共創教育科目	4 単位以上
工学基礎科目	1 4 単位以上
専門科目	7 0 単位以上
総 計	1 2 4 単位以上

1) キャリア教育科目

学科ディプロマ・ポリシー(DP)の(A)の資質・能力を身につけるため「キャリア教育科目」に配置されている5単位を修得する。

2) 総合教養科目

学科 DP の(A)及び(C)の資質・能力を身につけるため「総合教養科目」から 18 単位以上（人間科学分野から 6 単位以上、国際コミュニケーション分野から 8 単位以上を含む）を修得する。

3) AI・データサイエンス科目

学科 DP の(B) の資質・能力を身につけるため「AI・データサイエンス科目」から 2 単位以上を修得する。

4) 共創教育科目

学科 DP の(A) 及び(F)の資質・能力を身につけるため「共創教育科目」から 4 単位以上を修得する。

5) 工学基礎科目

学科 DP の(B) の資質・能力を身につけるため「工学基礎科目」から 1 4 単位以上を修得する。

6) 専門科目

学科 DP の(D)及び(E)、付随的に(F)の資質・能力を身につけるため、いずれかの履修コースの「専門科目」から 70 単位以上を修得する。

また、学則第 2 3 条第 3 項にて、工学科に履修上の区分として 5 つのコースを設けること、学生はいずれかのコースを修了し卒業するものとするを規定している。これを受け学則を受け、履修規程第 2 条第 2 項において、工学科の各コースの修了要件として、履修プログラムを表 5 の通り定めている。学生は選択したコースの履修プログラムを満足するよう履修することにより、工学科の卒業となる。なお、コースの履修プログラムの履修表（履修モデル）は履修規程別表 1 に示されている。【資料 2】

表 5 履修プログラム

学部	学科	コース	履修プログラム
工学部	工学科	機械工学	機械工学 機械工学総合 自動車工学
		電気電子通信工学	電気電子通信工学
		システム情報工学	システム情報工学
		生命環境科学	生命環境科学
		建築・土木工学	建築学 土木工学

工学科では、発展的・分野横断的な学びを強化するために「工学発展科目」と「特別専攻科目」を配置している。これらのコア科目を中心に学びつつ、表6に示す発展プログラムと特別養成プログラムによりさらに発展した学びが可能となっている。同プログラムの履修表（履修モデル）は履修規程別表3に示されている。

表6 分野横断型プログラム

学部	学科	コース	発展プログラム	特別養成プログラム
工学部	工学科	機械工学	原子力工学 ロボット工学	スーパーエンジニア 養成
		電気電子通信工学		
		システム情報工学		
		生命環境科学	海洋学 (海洋生態)	
		建築・土木工学	海洋学 (海洋土木)	

6. 編入学定員を設定する場合の具体的計画

編入学定員は設定していないが、学則第13条において、人員に余裕のある場合に限り、選考の上、編入学を許可することがあると規定している。また、学則第15条では、編入学を許可された者の、すでに修得した授業科目とその単位数及び修業年数は、審査の上、その一部又は全部を認めることがあると定めている。

編入学試験は年に2回実施される。入学を許可された者は、出身学校の成績証明書、シラバス（履修科目の授業内容がわかるもの）及びその他の資料を大学に提出し、それらを参考に希望するコース（履修プログラム）の修得単位として認定することとなる。既修得単位の具体的な認定の流れは、学科・コースが科目担当教員と協議の上、単位認定伝票【資料3】を作成し、教務委員会で確認している。編入学を許可された学生は、認定された単位数がコースの進級要件を満たしている学年に在籍し、そのコース（履修プログラム）の進級要件及び修了要件を満足するよう科目を履修する。

7. 実習の具体的計画

設置される工学科では、全コースに高一種免（工業）及びシステム情報工学コースに高一種免（情報）の教職免許を取得できるよう課程認定申請を行っている。これまでの工学部の実績から30名程度の教育実習を見込んでいる。実習先としては、青森県内の高等学校から実習生の受入れの承諾を得ている。

(1) 実習先の確保状況

教職課程認定申請において提出した実習生の受入先の高等学校一覧（54校、829

学級)を【資料4】「教育実習実施計画に関する書類」に示す。

(2) 実習水準の確保と方策

教職課程科目の単位修得及び教育実習事前指導の合格を条件とすることにより、能力や適性、意欲が一定水準以上に達している学生のみを教育実習に派遣することとしている。また、「教職課程に関する連絡会議」(学務部長(議長)、基礎教育研究センター長、学務部次長、教職科目担当教員(専任(教職教室):3名)、学務部課長)を定期的に開催し、実習状況の共有と運営等の改善を行っている。

具体的には、教職課程認定申請において提出した【資料4】「教育実習計画に関する書類」に示す通りである。

(3) 教育実習先との連携体制

実習先教諭と教職科目担当教員、学務部職員が定期的に連絡をとり、実習指導方法及び内容の共通理解を得るとともに、その徹底を図っている。

(4) 実習前の準備状況

教育実習を行う学生は、事前に健康診断と麻疹抗体検査を必ず受診するよう指導している。昨年度からは新型コロナウイルス感染症の予防対策等についても説明している。また、実習に際しては「学研災付帯賠償責任保険」に加入し、実習中の事故等に対応できるようにしている。

(5) 事前・事後における指導計画

教職課程認定申請において提出した【資料4】「教育実習計画に関する書類」に示す通りである。

(6) 教員及び助手の配置並びに巡回指導計画

実習開始前から教育実習先、教職科目担当教員、学務部職員が綿密に連絡を取り、相互理解のもとで、効果的な実習が行える体制を構築し、教育実習先からの緊急連絡等に対応できるよう連絡体制を整えている。また、教職科目担当教員が学生の実習期間中に実習先を訪問し巡回指導を行っている。

(7) 実習施設における指導者の配置計画

実習先には本学教員は配置せず、実習先に指導教諭を配置していただく。実習先とは、教職科目担当教員、学務部職員が緊密に連絡をとり、学生が充実した実習を行える体制を構築している。

(8) 成績評価体制及び単位認定方法

教職課程認定申請において提出した【資料4】「教育実習計画に関する書類」に示す通りである。

8. 企業実習（インターンシップを含む）や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画

（1）インターンシップ

工学科の各コースでは「インターンシップ」あるいは「学外研修」（いずれも選択科目）が3学年に配置されており、これらの科目により原則5～10日間程度の企業実習が行われる。既存の工学部5学科の実績では年間40名程度の学生が企業実習に参加しており、工学科でも同程度の履修者数を見込んでいる。

1) 実習先の確保状況

年度初めの4月に学務部就職支援担当と科目担当教員が企業実習の受入可能な企業リスト（60社程度）を作成する。5月にその企業リストを学生に開示するとともに、企業実習の流れ・内容等について説明し、学生と企業とのマッチングが図られる。正課での企業実習の実施にあたっては、事前に受け入れ企業等と「インターンシップ・プログラム覚書」を締結する。原則として企業実習は夏季休業期間を利用して実施することとしている。

2) 実習先との連携体制

実習先の企業担当者と科目担当教員、学務部職員が定期的に連絡をとり、実習指導方法及び内容の共通理解を得るとともに、その徹底を図っている。また、科目担当教員が学生の実習期間中に実習先を訪問し巡回指導を行っている。

3) 成績評価体制及び単位認定方法

成績はインターンシップ評価書（企業担当者による評価：50点）および研修後の実施研修報告書（科目担当教員による評価：50点）により評価する。

（2）海外研修

本学では①英語あるいは②中国語の「海外研修」（選択科目）を正課として実施している。既存の工学部5学科の実績では年間5～10名程度（①と②の合計）の学生が「海外研修」に参加しており、工学科でも同程度の履修者数を見込んでいる。研修時期は、英語は2月～3月、中国語は8月を予定している。

1) 実習先の確保状況

① ISS（株）国際交流センターが本学の学生向けに企画・提供しているプログラムにより英語圏での語学研修（約7～28日間）を行う。

② 本学と学術交流協定を締結している中国の瀋陽工業大学にて語学研修（約14日間）を行う。

2) 実習先との連携体制

- ① 科目担当教員がISSと協議の上、実習先及び研修内容を検討し、学生指導を行う。
- ② 中国語の科目担当教員が実習先である瀋陽工業大学の担当者と連絡をとり、研修内容の検討及び学生指導を行う。また、原則として同教員が引率することとしている。

3) 成績評価体制及び単位認定方法

- ① 成績は事前ガイダンスで配付される課題提出と実習先での授業や課外活動への参加状況、そして帰国後のレポート提出と報告会プレゼンテーションによって科目担当教員が評価する。
- ② 成績は日本での事前、事後研修、現地語学講座での受講態度、その他研修態度と、帰国後提出するレポートにより科目担当教員が評価する。

9. 取得可能な資格

各コースの取得可能な資格及び取得を支援している資格を以下（表7～11）に示す。

表7 機械工学コースの取得可能な資格

資格名称	資格の概要	資格種別
高等学校教諭一種免許状（工業）	所定の単位を取得し、卒業と同時に得られる資格	国家資格
技術士補（「機械工学プログラム」のみ）	卒業後、申請により得られる資格	国家資格
ボイラー・タービン主任技術者	特定の教科の単位を取得することによって、卒業後、受験資格が得られる資格	民間資格
管工事施工管理技士	卒業後、実務経験を経て受験資格が得られる資格	民間資格
ボイラー技士（特級）	卒業後、実務経験を経て受験資格が得られる資格	民間資格
ボイラー技士（1級）	特定の教科の単位を取得することによって、卒業後、受験資格が得られる資格	民間資格
自動車整備士（2級ガソリン）（「自動車工学プログラム」のみ）	特定の教科の単位を取得することによって試験の一部が免除される資格	国家資格

表8 電気電子通信工学コースの取得可能な資格

資格名称	資格の概要	資格種別
------	-------	------

高等学校教諭一種免許状 (工業)	所定の単位を取得し、卒業と同時に得られる資格	国家資格
第一種電気主任技術者	特定の教科の単位を取得することによって、卒業後実務経験を経て申請により得られる資格	国家資格
第二種電気主任技術者	特定の教科の単位を取得することによって、卒業後実務経験を経て申請により得られる資格	国家資格
第三種電気主任技術者	特定の教科の単位を取得することによって、卒業後実務経験を経て申請により得られる資格	国家資格
第二種電気工事士	特定の教科の単位を取得することによって試験の一部が免除される資格	国家資格
電気通信主任技術者（伝送交換）	特定の教科の単位を取得することによって試験の一部が免除される資格	国家資格
電気通信主任技術者（線路）	特定の教科の単位を取得することによって試験の一部が免除される資格	国家資格
第一級陸上特殊無線技士	特定の教科の単位を取得することによって、卒業後、申請により得られる資格	国家資格
第二級海上特殊無線技士	特定の教科の単位を取得することによって、卒業後、申請により得られる資格	国家資格
1級電気工事施工管理技士	卒業後、必要な実務経験年数が短縮される資格	国家資格
2級電気工事施工管理技士	卒業後、必要な実務経験年数が短縮される資格	国家資格

表9 システム情報工学コースの取得可能な資格

資格名称	資格の概要	資格種別
高等学校教諭一種免許状 (工業)	所定の単位を取得し、卒業と同時に得られる資格	国家資格
高等学校教諭一種免許状 (情報)	所定の単位を取得し、卒業と同時に得られる資格	国家資格
基本情報技術者	受験のための指導体制を整備している資格	国家資格
シスコ技術者認定	受験のための指導体制を整備している資格	民間資格
CG-ARTS 検定	受験のための指導体制を整備している資格	民間資格

表 1 0 生命環境科学コースの取得可能な資格

資格名称	資格の概要	資格種別
高等学校教諭一種免許状 (工業)	所定の単位を取得し、卒業と同時に得られる資格	国家資格
食品衛生管理者	所定の単位を取得し、卒業と同時に得られる資格	国家資格
食品衛生監視員資格	所定の単位を取得し、卒業と同時に得られる資格	国家資格
上級バイオ技術者認定資格	3 学年修了者又は修了見込みの者に対して受験資格が得られる資格	民間資格
公害防止管理者 (水質関係)	資格取得を支援している資格	国家資格
環境計量士 (濃度関係)	資格取得を支援している資格	国家資格
危険物取扱者	卒業と同時に、又は所定の単位を取得することにより在学中に受験資格が得られる資格	国家資格

表 1 1 建築・土木工学コースの取得可能な資格

資格名称	資格の概要	資格種別
高等学校教諭一種免許状 (工業)	所定の単位を取得し、卒業と同時に得られる資格	国家資格
測量士補	卒業後、申請により得られる資格	国家資格
技術士補 (「土木工学プログラム」のみ)	卒業後、申請により得られる資格	国家資格
測量士	卒業後、実務経験を経て申請により得られる資格	国家資格
一級建築士	特定の教科の単位を取得することによって、卒業後、受験資格が得られる資格 (※履修科目によって実務経験の短縮有り)	国家資格
二級建築士	特定の教科の単位を取得することによって、卒業後、受験資格が得られる資格 (※高校での履修科目によって、在学中に受験資格が得られる場合が有り)	国家資格
木造建築士	特定の教科の単位を取得することによって、卒業後、受験資格が得られる資格 (※高校での履修科目によって、在学中に受験資格が得られる場合が有り)	国家資格
火薬類取扱保安責任者	特定の教科の単位を取得することによって	国家資格

	試験の一部が免除される資格	
土木施工管理技士	卒業後の実務経験が短縮され受験資格を得られる資格	国家資格
建築施工管理技士	卒業後の実務経験が短縮され受験資格を得られる資格	国家資格
コンクリート診断士	卒業後の実務経験が短縮され受験資格を得られる資格	民間資格
コンクリート主任技士	卒業後の実務経験が短縮され受験資格を得られる資格	民間資格
造園施工管理技士	卒業後の実務経験が短縮され受験資格を得られる資格	国家資格
土地区画整理士	卒業後の実務経験が短縮され受験資格を得られる資格	国家資格

10. 入学者選抜の概要

本学では建学の精神、教育理念、さらにディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づいた人材育成と教育内容を踏まえ、大学、学部、学科レベルでアドミッション・ポリシーを策定している。このポリシーのもとに学力の三要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」）を把握するため、多様な入学試験制度により選抜を行い、多様な資質を持つ学生の受入れに努めている。

選抜試験については、入学者選抜専門委員会にて検討された入学者選抜に係る情報を参考に、アドミッション・ポリシーに基づいて入学試験委員会が合格者案を作成している。そして、その選考結果を教授会で審議し、学長が合格者を決定している。

(1) 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

1) 大学のアドミッション・ポリシー

八戸工業大学は、建学の精神である「正己以格物」（己を正し以て物に格る）に基づいた自己思考能力を育むカリキュラムにより、基礎知識や専門知識だけにとどまらず、将来的に地域を牽引していくことができる総合力を備えた次世代のリーダーにふさわしい人材を養成しています。また、「良き技術は、良き人格から生まれる」という教育理念を掲げており、高度な専門知識を備え高度な応用展開力をもつとともに豊かな人間性と総合的な判断力をもつ社会の担い手の育成を目指しています。

これらを実現するため、高等学校で履修する教科・科目について基礎的な知識・技術を有しており、本学が進める教育研究活動に強い関心があり、さらに自らを向上させようとする意欲を持つ人を、多様な選抜制度により受け入れます。

本学の入学者選抜では、志願者の学力の三要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」）を把握し、各学科の教育・人材育成の目的にかなう能力・資質・意欲・適性などを判断するため、入試形態ごとに個別学力検査、大学入学共通テスト、調査書、小論文、面接などを組み合わせて志願者の能力や資質を多面的・総合的に評価します。

2) 工学部のアドミッション・ポリシー

工学部では、豊かな人間性、総合的な判断力を基盤とする工学の素養をもった人材、社会の変化に対応できる柔軟な思考力をもった人材、工学の基礎原理を踏まえ高度な応用展開能力をもった人材、地域社会への関心、そしてグローバルな視野をもった人材の育成を目指しています。

これらを実現するため、工学部では、本学が進める工学に関する教育研究活動に強い関心があり、本学において自らを向上させようとする意欲を持ち、高等学校で履修する教科・科目について基礎的な知識・技術を有している人を、多様な選抜制度により受け入れます。

3) 工学科のアドミッション・ポリシー

工学科は、高い倫理観、工学の専門知識と高度な応用展開力、論理的・創造的思考力やコミュニケーション能力を身につけ、異なる分野の人とも協調して課題解決にあたることのできる人材の育成を目指しています。

工学科は、機械工学、電気電子通信工学、システム情報工学、生命環境科学、建築・土木工学の5コースの教育体制を取っており、工学科の目的ならびにそれぞれのコースの学びに強い関心があり、これらの能力を身につけて地域や社会で活躍したいという目標を持って主体的に取り組む人を受け入れます。

・機械工学コース

機械工学コースでは、材料力学および機械力学、熱力学および流体力学、情報および制御工学、材料および設計・加工学、自動車工学などについて学びます。

・電気電子通信工学コース

電気電子通信工学コースでは、電気エネルギーシステム、電子デバイス・システム制御、および情報・通信・メディアなどについて学びます。

・システム情報工学コース

システム情報工学コースでは、マルチメディア、ネットワーク、セキュリティ、システムなどの情報分野および情報関連分野などについて学びます。

・生命環境科学コース

生命環境科学コースでは、生命科学、食品科学、環境科学および化学工学などについて学びます。

・建築・土木工学コース

建築・土木工学コースでは、建築設計や建築計画、建築環境、インテリアデザインなどの建築学、または社会基盤施設の計画・設計・施工・維持管理などの土木工学について学びます。

(2) 入学者選抜方法

工学部工学科では、アドミッション・ポリシーに基づいて、表12のような入試区分を設け選抜を行う。

表12 入試区分

入試区分	入試名称	募集人員（比率）
総合型選抜	総合型選抜試験	49名（20%）
学校推薦型選抜	学校推薦型選抜試験(指定校制)	67名（27%）
	学校推薦型選抜試験(公募制)	
一般選抜	一般選抜試験(前期・後期)	58名（23%）
	大学入学共通テスト利用選抜試験(前期・中期・後期)	76名（30%）
特別選抜	社会人特別選抜試験	若干名
	外国人留学生特別選抜試験	
	帰国生特別選抜試験	
入学定員		250名

1) 総合型選抜試験

工学に強い関心と勉学意欲がある者を対象として、面接、調査書、本人が記載するエントリーシート、授業体験のなかで作成する小論文により多面的・総合的に評価・選抜する。

「知識・技能」を調査書(学習成績の状況)および小論文で、「思考力・判断力・表現力」を面接で、「主体性・多様性・協働性」を調査書(総合的な学習の時間等の学習の成果、学内での活動、学外での活動)及びエントリーシートで確認している。

2) 学校推薦型選抜試験(指定校制・公募制)

工学に強い関心と勉学意欲があり、出身高等学校長から推薦され、全体の学習成績の状況が3.5以上の者を対象として、面接、口頭試問、調査書、本人が記載する志望理由書、高等学校長からの推薦書により多面的・総合的に評価・選抜する。

「知識・技能」を口頭試問および調査書(学習成績の状況)で、「思考力・判断力・表現力」を面接および志望理由書で、「主体性・多様性・協働性」を高等学校長からの推薦書及び調査書・志望理由書で確認している。

3) 一般選抜試験(前期・後期)

筆記試験及び調査書により評価・選抜する。数学、理科必須、国語と英語から1教科選択の計3教科の合計点（各教科100点、300点満点）により評価している。

「知識・技能」を本学個別の筆記試験で、「思考力・判断力・表現力」を「数学」の試験における記述式問題で、「主体性・多様性・協働性」を調査書で確認している。

4) 大学入学共通テスト利用選抜試験(前期・中期・後期)

本学が大学入学共通テストで指定する教科・科目の成績及び調査書により評価・選抜する。数学1教科1科目必須、その他指定する教科・科目から2教科2科目選択の計3教科3科目の合計点(100点満点の科目は200点満点に換算し、合計600点満点)により評価している。

「知識・技能」および「思考力・判断力・表現力」を大学入学共通テストの指定科目で、「主体性・多様性・協働性」を調査書で確認している。

5) 社会人特別選抜試験

当該年度4月1日現在満23歳以上で、就労経験を1年以上有する者で、下記のいずれかに該当する者を対象とし、面接、エントリーシート、授業体験のなかで作成する小論文部)により多面的・総合的に評価・選抜する。なお、就労経験には家事従事期間を含む。

1. 高等学校または中等教育学校を卒業した者。
2. 通常の課程による12年の学校教育を修了した者。
3. 学校教育法施行規則第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者

学力の三要素は総合型選抜試験と同様に確認している。

6) 外国人留学生特別選抜試験

日本国籍を有しない者で、外国において大学入学資格を有する者、あるいは外国において学校教育による12年の課程を修了(修了見込みの場合も含む)した者。さらに、下記の条件のいずれにも該当する者を対象とし、面接、エントリーシート、授業体験のなかで作成する小論文部)により多面的・総合的に評価・選抜する。なお、日本国籍を有しない者でも、日本国内の高等学校等を修了した者は対象としない。

- ① 在留資格の「留学」を取得または更新できる者および取得見込みの者。
- ② 日本学生支援機構(JASSO)が行う日本留学試験(EJU)の「日本語」で200点以上、あるいは日本国際教育支援協会(JEES)が行う日本語能力試験でN2以上の成績を修めた者。

学力の三要素は総合型選抜試験と同様に確認している。

7) 外国人留学生特別選抜試験

日本国籍を有する者で、外国の学校に在学した者。さらに、下記の条件のいずれかに該当する者を対象とし、面接、エントリーシート、授業体験のなかで作成する小論文部)

により多面的・総合的に評価・選抜する。

- ① 外国において大学入学資格を有する者。
- ② 外国において、中等教育機関に3年以上継続して在学し、外国の学校教育課程に基づく教育を受け、帰国後日本の高等学校に入学し、当該高等学校を卒業（卒業見込の場合も含む）した者。ただし、日本の高等学校もしくは中等教育学校（後期課程）における在学期間が帰国後1年半を超えない者で、原則として高等学校卒業後2年以内の者。
- ③ 外国において学校教育における12年の課程を修了した方に準ずる者で、文部科学大臣の指定した者。（原則として、最終学年を含めて2年以上継続在学した者であること）

学力の三要素は総合型選抜試験と同様に確認している。

1 1. 教員組織の編制の考え方及び特色

本学科では、学生が幅広い分野を学び、関連する研究テーマを選択できるようにするため、教員はコースには属さず学科のみに属すこととしている。主要科目を担当する教員は原則として専任の教授、准教授配置し、博士の学位を保有している。一部の科目で、この条件を満たしていない者もいるが、担当者として十分な教育業績または実務経験を有している。

本学科の専任教員は、教授22名、准教授15名、講師5名、合計42名で構成され、大学設置基準を十分に満たしている。これら工学科に配属される教員は、いずれも募集を停止する工学部の機械工学科（6名）、電気電子工学科（9名）、システム情報工学科（9名）、生命環境科学（9名）、土木建築工学科（9名）に所属している。よって、工学科の各コース（機械工学、電気電子通信工学、システム情報工学、生命環境科学、建築・土木工学）の専門性は適正に維持され、教育研究機能もそのまま継続される。

各教員の授業負担は、担当科目が多い教員で年間17科目となっているが、オムニバスの科目が多く配置されているためである。平均的には7科目程度であり、実質の担当時間は特段に大きな負担とはなっておらず適正である。

教員の教育研究上の経験が豊富で校務運営にも精通している年齢の高い教員から、学生が親近感を感じることができ発想力に秀でた若手教員まで、バランスよく配置されている。教授は40～60歳代、准教授は40～50歳代、講師は30～40歳代であって、年代間の間隔が適正であるため、教育上必要な業務を相補的に効率よく推進することが可能であり、また、定期的に人員の更新を進めることによって、教員間での改善活動や経年的な教育水準の向上が期待できる。

規程により教員の定年は65歳であるが、定年規程及び定年退職者の再雇用に関する規程【資料5】により、要件を満たせば最長70歳まで嘱託教員となることができる。完成年度までに2名の教員がこの規定により嘱託教員となる予定である。

1 2. 施設、設備等の整備計画

(1) 校地、運動場の整備計画

本学は校地全体で約 18 万㎡の面積があり、収容定員に対して広大なキャンパスを有している。校地内には教育研究を行う上で必要となる校舎が集約され、事務的な機能を担う本館、教養教育を担う教養棟、教養棟旧館及び専門教育を担う学科・コースの各専門棟、大型実験棟が効率的に配置されている。さらに、グラウンドや野球場、サッカー場、テニスコート等の運動場も十分に整備されている。

(2) 校舎等施設の整備計画

基本的に設置する工学科において必要な教室、実習・実験設備、研究室等の校舎・施設は、廃止する 5 学科と工学科の収容定員が同数であり、授業時間数にも大幅な増加はないことから十分に確保できている。

PC を活用した授業、学生のプレゼンテーション資料やレポート作成等に対しても十分な ICT 環境が整備されている。また、実験や実習、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を広く展開しており、実験室や実習室、製図室、実験装置・設備等も十分に整備されている。校舎内には、学科・コースごとの自習室等の各種自主学習環境が十分に配置され、図書館、食堂、売店等の学修環境及び休息可能な環境も適切に整備されている。なお、全学生のノートパソコン必携化に伴い、各教室の電源増設や学内の Wi-Fi ルーターの増強を進めている。

研究室は、ほとんどの教員が廃止する工学部 5 学科から移動するため、従来使用していた研究室を使用する。

(3) 図書等の資料及び図書館の整備計画

1) 図書等の整備計画

本学は工業系の大学であり、図書館における工学関係の書籍資料は極めて充実している。これらの書籍類は、廃止する 5 学科から引き継がれ、工学科においても利用できる。また、工学部の性格上求められる工学関係の資料は、工学科各コース関係の参考図書を中心に、常に学生が利用可能な状況にある。

また、図書館で選書する書籍とは別に、工学科各コースの教員が推薦する参考図書を整備する予算を確保し、毎年執行することで工学科の教育・研究に必要な参考図書を継続的に整備している。今後も年間で、概ね大学図書館において 300 冊の工学科関連リファレンス図書資料の整備を予定している。

2) 電子ジャーナル等の整備計画

デジタルデータベースとして国立国会図書館デジタルコレクション、CiNii、Webcat Plus、Science Direct、Taylor & Francis Online が稼働中である。このうち、Science Direct については学内向けに複写サービスを提供している。また、Taylor & Francis Online では理工学系 3 分野(化学/物理学/数学・統計学)のうち 124 タイトルのバックフ

ファイル(1996年以前)で全文アクセスが可能である。

3) 図書館機能の適切性

本学における図書施設の総面積は2,126㎡であり、各種閲覧室、書庫、多目的ホール等の施設がこれに含まれている。図書館の開館時間は、5校時の授業終了後の利用を考慮し、授業日の週日については8:40～20:30を原則としている。授業の行われない週日は、8:40～17:00の開館である。大学の休日については、土曜日の10:00～17:00を開館時間としている他、試験週間の前週からは日曜日も10:00～17:00に開館している。

大学図書館の収蔵資料は、図書約13万冊、視聴覚資料約5,680点に及ぶ。各種閲覧室の合計スペースは955㎡(164席)であり、このうちリファレンスルームには325㎡(94席)が充てられている。検索システムはOPACのほか、八戸工業大学学術リポジトリ、国立国会図書館デジタルコレクション、CiNii、Webcat Plus、Science Directが稼働しており、十分な利便性を提供できている。工学部での学習に対する親和性が特に高い書籍の蔵書数は54,325冊にのぼり、学部図書スペースの蔵書と併せて、汎用性と専門性のいずれも高いリファレンス環境となっている。

蔵書の質と量、閲覧室といったハード面はもちろん、開館時間や検索方法等のソフト面でも図書関係のシステムは、本学科の学生にとって十分な利便性がある。

4) 他大学図書館との協力

○八戸学院図書館との連携・協力に関する協定

八戸学院図書館と本学図書館の連携・協力に関する協定を締結しており、所蔵する情報資源の有効な相互利用を図る等、図書館活動に関する幅広い連携・協力をを行い、両館利用者へのサービスの向上と地域の発展等に寄与することとしている。

○青森県立図書館との連携・協力に関する協定

青森県立図書館と本学図書館の連携・協力に関する協定を締結しており、所蔵する情報資源の有効な相互利用を図る等、図書館活動に関する幅広い連携・協力をを行い、両館利用者へのサービスの向上と地域の発展等に寄与することとしている。

○青森県高等教育機関図書館協議会

青森県内の国公私立大・短大、高専の高等教育機関の図書館で構成されている。総会は年に1回開催されており、図書館関係教職員が一同に会し、交流を深めている。

日々の業務の中で、各館が抱えている疑問点・相談への意見および対処方法を述べ合う等、情報交換や相互協力、それ以外の情報の収集、意見交換等が行え、そこで得た知識・手法等を今後の図書館運営に役立たせることができるものである。

また、図書館職員の資質向上をはかるため、研修会も年に1度開催している。内容は実践的であり、同様にそこで得た知見等を、今後の図書館業務に役立たせることができるものである。

○東北地区大学図書館協議会総会

東北地区の大学図書館関係教職員が一同に会して開催される。

総会後に、国立・公立・私立の3つに分かれて分代会が行われる。本館は私立部会に出席している。各分会ともに、隔年ごとに各図書館の近況報告が行われる。時間的制約もあり、意見交換等はできないが、東北地区の大学の図書館の流れ、図書館が抱えている悩み等の情報の収集や交換が行える。

また、記念講演会では中央から講師を招へいするので、全国的な大学図書館の流れ、最新の図書館事情等の情報を掴むことができ、今後の図書館業務に役立たせることができるものである。規模が大きいため、交流という点では、なかなか難しいものがある。

また、図書館職員の資質向上をはかるため、研修会も年に1度開催している。内容は実践的であり、同様にそこで得た知見等を今後の図書館業務に役立たせることができるものである。

○私立大学図書館協議会東北地区部会

北海道、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県、茨城県、栃木県、埼玉県、東京都に設置されている私立大学 270 校で構成されている。私立大学図書館協会は、大学図書館の改善発展を図ることを目的とし、これに関する調査・研究及びその成果の刊行、研究会・講演会等の開催、機関誌の刊行、対外関係活動等の諸事業を行っており、私立大学の約9割が加盟している。

○相互協力

他大学や公的図書館等に所蔵している図書借受の要望があった場合は、図書館が窓口となり、連絡を行って借受手続きを行っている。

また、他大学や公的図書館等から貸出依頼があった場合も、手続きを行って貸し出ししている。

相互協力を行い、各図書館と連携を深めていきたい。

また、教員が他機関の図書館を利用する場合、紹介状等が必要な場合は、作成している。

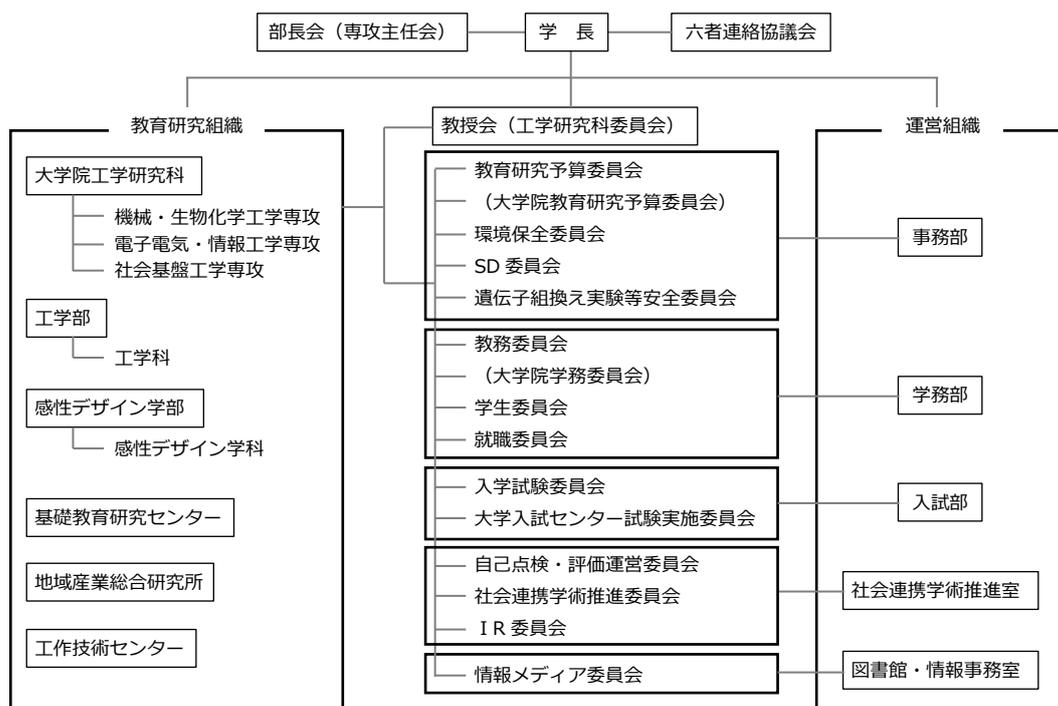
13. 管理運営

大学全体の管理運営体制は下図のとおりである。学長の意思決定を補助する役割として、学長補佐2名（学務部長、社会連携推進室長を兼務）、入試部長、事務部長、学校法人事務局長を加えた六名が出席する六者連絡協議会を月2回程度行っており、大学運営の重要事項についての情報共有と意見交換を行っている。さらに、運営組織と教育研究組織との連携を効率的に行うために、学長の下に部長会と専攻主任会を置き、学長補佐及び各部局長が教学及び学生支援等校務に関する諸事項を協議・検討・調整しつつ運営を行な

っている。

学長が、教育研究に関する重要事項について意思決定を行うにあたり意見を聴く場として、教授会・工学研究科委員会が設置され、月1回程度開催されている。教授会は学則第61条及び第62条、並びに教授会規則により、構成や運営・位置付け・役割が明確に定められている。本学の教授会は、助教以上の全教員が構成員となっており、学則第62条に定められた「学生の入学、卒業」と「学位の授与」の他に、教授会の意見を聴くことを必要とする事項については、「学長が八戸工業大学教授会から意見を聴く事項」が定められている。大学院に関しても同様に、「学長が八戸工業大学大学院工学研究科委員会から意見を聴く事項」が定められている。

教授会の下には、必要に応じて各種委員会が設置されている。各種委員会の多くは、学務部長や入試部長等の運営組織の長が委員長を務める一方、学科等の教育研究組織から代表者1名程度が選出され、運営されている。事務職員が委員を務める場合もあり、適材適所の教職協働体制が整っている。



14. 自己点検・評価

本学は、学則第2条において、その教育研究水準の向上を図り、前条の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行う、こととしている。現在、本学では中長期目標・基本計画 HIT Grand Design 55（平成30年4月制定、令和2年4月改定）を基本計画として、各学科・部局で教育研究活動を実施している。自己点検・評価活動については、自己点検・評価取扱要綱に従って、八戸工業大学自己点検・評価運営委員会及び同専門員会を主体として実施されている。自己点検・評価の

結果については、ホームページで公開している。点検評価事項は以下のようになっている。

- 一 教育理念及び目的に関すること
- 二 大学院における教育・研究活動の内容・方法等に関すること
- 三 学部等における教育・研究活動の内容・方法等に関すること
- 四 学生の受入れと支援に関すること
- 五 組織等に関すること
- 六 施設設備等に関すること
- 七 国際交流等に関すること
- 八 管理運営と財政等に関すること
- 九 自己点検・評価体制等に関すること
- 十 社会貢献に関すること
- 十一 その他

学校法人八戸工業大学には内部監査室が設置されており、学校法人事務局による点検（教学監査）も実施されている。自己点検・評価活動の客観性を高めるために、令和元年度より外部評価委員会を設置し、毎年外部評価報告書を作成している。認証評価としては、平成18年度より7年に1度、公益財団法人日本高等教育評価機構（JIHEE）の認証評価を受審し、認証されている。さらに、機械工学科、土木建築工学科において、日本技術者教育認定機構（JABEE）の認定を受けてきており、今後も工学科の機械工学コース（機械工学プログラム）、建築・土木工学科コース（土木工学プログラム）として認定を継続する予定である。

これらの自己点検・評価に基づき、教育と研究・地域貢献等の分野ごとに改善計画が立案・実行され、PDCAサイクルが廻っている。

15. 情報の公表

教育情報、修学支援、各種協定・連携状況、公的研究費及び研究活動の適正確保、大学評価、中長期目標、危機対応、IR活動、法人に関する情報公開等の公開すべき情報は、大学ホームページの「情報公開」にまとめて公開している。

下記のア～ケに関する教育情報は大学ホームページの「教育情報の公開」にまとめている。（URL：<https://www.hi-tech.ac.jp/disclosure/training/>, トップ>情報公開>情報の公開）

- ア 大学の教育研究上の目的に関すること
- イ 教育研究上の基本組織に関すること
- ウ 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること
- エ 入学者に関する受入れ方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

- オ 授業科目，授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること
- カ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること
- キ 校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること
- ク 授業料，入学料その他の大学が徴収する費用に関すること
- ケ 大学が行う学生の修学，進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

その他についても、下記のように大学ホームページで公表している。

- ・教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報
(URL : <https://www.hi-tech.ac.jp/about/rinen/>, トップ>八戸工業大学について>建学の精神・教育理念)
- ・学則等各種規程
(URL : https://www.hi-tech.ac.jp/about/gakusei_youran/, トップ>八戸工業大学について>学生要覧>第7章 諸規定)
- ・自己点検・評価報告書，認証評価の結果
(URL : <https://www.hi-tech.ac.jp/disclosure/assess/>, トップ>情報公開>情報の公開>大学評価 (自己点検・評価))

1.6. 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

全学的に教育改善を推進するため部長会構成員を中心とした教育改革委員会を設置している。この委員会の下に設置されている教育改革専門委員会において教育課程、教育内容及び教育方法の改善について協議している。本専門委員会には各部局の教務委員が加わっており、これらの協議結果は教務委員を通じて各部局に還元される。また、教育改革に係る重要事項については、教育改革委員会で審議される。なお、FD活動、SD活動も計画的に実施し、教職員の能力及び資質向上を常に図っている。

(1) FD活動

FD活動として教育改善に関するシンポジウム等が年2回程度行なわれ、遠隔授業、アクティブ・ラーニング、e-ラーニング、ラーニング・ポートフォリオ等について意見交換が行なわれ、教育改善に役立てている。

また、教務委員会が中心となって、各教員の担当する全科目について学生による授業評価アンケートを実施しており、教員の資質・能力向上を図っている。課題がある教員については改善計画の提出を求め、授業内容の向上を図っている。

(2) SD活動

大学を中心とした法人全体の運営に関わる職員の資質・能力向上への取組みとして、法人事務局・設置校の教職員役員を対象に、法人事務局人事担当主催の研修会を開催している。また、文部科学省や私学共済事業団を始めとした外部の説明会や研修会にも、

担当業務や経験年数等に応じて積極的に参加しており、職員の能力向上に努めている。これらの出席した研修会の一部は、職員間での情報共有を図るため、報告会を開催している。さらに、若手職員を対象に、資質向上及び交流を目的とした研修会を開催している。

大学内にSD委員会を設置し、研修の内容を検討し実施する体制を整えており、計画的なSD研修会等を企画・運営している。

また、令和元年度より、教職員の資質能力の向上及び学校組織の活性化を図ることを主な目的とした人材育成・評価制度を制定し試行実施している。

17. 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

(1) 教育課程内の取り組みについて

キャリアデザインⅠ・Ⅱ・Ⅲを1～3学年に配置し、1学年から段階的にキャリア教育を行っている。

キャリアデザインⅠでは、自分の個性を理解する適性試験、将来の進路を考える手がかりとなるキャリアプランニング等を行い、職業への理解や就職までに心がける事項に関するヒントを学び、大学で自ら必要な情報を入手し、行動を起こして学修を進める能力を身につける。

キャリアデザインⅡでは、学科・コースに関連した専門教育や資格取得、進路・就職先等の説明、上級学年によるインターンシップ・就職活動報告会、就職後に必要となる力とその磨き方に関するキャリアプランニング等を行い、専門教育を学ぶ目的を理解し、将来の進路決定に向けて就職意識を高め、自ら行動を起こして学修を進める能力を育てる。

キャリアデザインⅢでは、就職支援行事の概要、就職検索システムを利用した検索方法の説明等に関する就職ガイダンス、業界研究の方法及び基本的な業界情報に関する就職講演会、職場見学、インターンシップ等の職場体験等を通じて、将来の進路に対する自分の考えをより明確なものとし、目標達成のための方法や行動を理解し、進学や就職活動の計画を立てる。

インターンシップは正課（選択科目）として配置し、原則として3学年の夏季休業期間中に実施することとしている。

(2) 教育課程外の取り組みについて

本学ではこれまで年に複数回の学内合同就職説明会（就職懇談会）を実施し、学生が多く企業との面談を行う機会を設けている。本説明会での説明、面談をきっかけに採用試験を受けた学生の多くが内定を得る等、重要な支援行事となっている。

また、エントリーシート・履歴書指導、面接対策講座や一般教養・SPIの模擬試験等を実施し、実践的な就職活動の準備に取り組み必要なスキルを高めるようにしている。

設置される工学科でも同様の取り組みを実施することとしている。

(3) 適切な体制の整備について

学生へのキャリア教育は、主に学務部、教務委員会、就職委員会で検討され、計画的に実施される。また、学生からの相談には学務部就職支援担当のほか、担任・就職委員・所属研究室の教員等が対応しており、学生の要望を丁寧に聞くとともに、就職活動状況等の情報を共有し、適切な就職支援を実施する。

資 料 目 次

- 【資料1】 全学統一の登録マニュアル
- 【資料2】 履修規程
- 【資料3】 単位認定伝票
- 【資料4】 教育実習実施計画に関する書類
- 【資料5】 定年規程、定年退職者の再雇用に関する規程

重 要

令和 2 年 12 月 3 日
教 務 課

教 員 各 位

「令和 3 年度（2021 年度）シラバス」登録について

令和 3 年度（2021 年度）のシラバスを、例年通り「Universal Passport」を利用して作成していただくようお願いいたします。

なお、シラバスの登録方法は、次の電子ファイルを参照ください。

Garoon ファイル管理／学務部／教務課／シラバス／シラバス登録／【UNIPA_マニュアル(シラバス登録). pdf】

入力期限：令和 2 年 3 月 8 日（月） 23:59

＜連絡事項＞

- 1) 入力内容の様式については、「R03 シラバス様式」を参照してください。
- 2) 今年度と同一授業コードで令和 3 年度（2021 年度）に実施する授業（カリキュラム変更およびクラス分け変更のないもの）のシラバスには、令和 2 年度のデータを仮登録してあります。内容を確認して必要に応じて修正してください。新規開講科目等については新たに作成をお願いします。
- 3) 非常勤講師担当の科目は、教務委員が修正・内容の確認をお願いします。
- 4) 「R03 シラバス様式」の①～⑤の欄を入力してください。入力該当項目がない場合は、「なし」または「特になし」等、空欄とならないよう入力してください。
※①④⑦⑧⑫は、システムデータが自動入力(または教務課登録)されますので編集できません。

＜シラバス作成に際しての注意事項＞

- 1) シラバス登録後に各部局でシラバス内容の事前チェックを行ってください。なお、マニュアルにある「公開」手続き前に実施していただくようお願いします。
- 2) 文科省に対して教員免許課程申請で提出したシラバスおよび今後行われる変更届に際して提出するシラバスと内容を一致させるようご注意ください。
- 3) 学科ごとの学習・教育目標や JABEE に関連する注意事項などの部分に訂正がある場合は、令和 2 年度シラバス CD から該当部分を印刷し、朱書き訂正したものを 3 月 15 日（月）までに提出してください。電子データがある場合にはあわせて提出をお願いします。

＜その他＞

- 1) シラバスへの準備学習記入例
 - ・Garoon ファイル管理／学務部／教務課／シラバス／【シラバスへの準備学習記入例 2019.pdf】を参照してください。
- 2) 平成 18 年度から平成 20 年度までのシラバス
 - ・Garoon ファイル管理／学務部／教務課／シラバス／に、pdf データを掲載しております。
- 3) 平成 21 年度から令和 2 年度までのシラバス
 - ・シラバス CD を参照してください。教務課で配布しておりますので、ご連絡ください。

R03 シラバス様式 (R3 変更有り)

① 科目名	測量学		
② (副題)			
③ 英語名称	Surveying		
④ 学年	2	⑤ 開講期	前期
⑥ 必修/選択	必修(全コース)	⑦ 単位数	2.0
⑧ 担当教員	阿波 稔		
⑨ 研究室・連絡先	土木建築工学専門棟・土木工学専門棟C318室、Tel:0178-25-8058、E-mail: aba@hi-tech.ac.jp		
⑩ オフィスアワー	研究室(C318)に在室時は何時でも可ですが、原則として毎週月・火曜日12:00～12:50とする。		

⑪ 八戸工業大学ディプロマ・ポリシーと当該授業科目との関連(大学院科目は入力不要)			
1) 豊かな人間性と総合的な判断力		2) 社会の変化に対応できる柔軟な思考力	
3) 専門分野の基礎原理の理解と高度応用展開力	○	4) 地域社会への関心をもちグローバルな視点で物事を考える姿勢	

⑫ 授業の要素										
講義	◎	演習(講義型)	○	実験		課題解決型学習(PBL)		グループワーク		ディスカッション・ディベート
プレゼンテーション		反転授業	○	学外研修・インターンシップ		実習・実技		フィールドワーク		ゼミナール
PC利用		e-ラーニング		クリッカーやタブレット等のICT機器を活用した双方向型授業		遠隔授業(リアルタイム型)		遠隔授業(オンデマンド型)		その他

⑬ 授業の到達目標	(1) 地球の形状と測量の基本事項について理解する。 (2) 距離測量、水準測量、基準点測量および細部測量の方法について習得する。
-----------	--

⑭ 授業の概要	測量は、地表面にあるいは空中など人間の活動領域における諸点の位置関係や空間の情報を得るための科学技術である。これら測量技術は、土木建築工学においては最も基本的かつ重要な技術であることから、必修科目として位置付けられている。授業では初めに地球の形状と測量や観測値の取扱い方について学習する。そして、距離測量、水準測量、基準点測量および細部測量に関する基礎知識について講義を進める。
---------	---

⑮ 学習・教育目標との関連・時間	学科の学習・教育目標との対応は次のとおりであり、計22.5時間の授業を行う。 目標(D)22.5時間:(D-1)土木・建築専門基礎科目の基礎学力◎
------------------	--

⑯ 授業計画	<p>第1回 総論、土木建築工学における測量の役割、測量の歴史</p> <p>第2回 地球の形状、緯度と経度、平面直角座標系、測量の原点(基準点)、測量の種類と測量法</p> <p>第3回 観測値の取扱い方 誤差の分類、正規分布、最小二乗法の原理、最確値</p> <p>第4回 距離測量 距離の定義、巻尺および光による距離測量</p> <p>第5回 水準測量 目的、用語、器械と器具</p> <p>第5回 水準測量 観測の方法(昇降式と器高式)</p> <p>第7回 水準測量の誤差 水準誤差の調整、原因と消去法</p> <p>第8回 水準測量に関する演習問題</p> <p>第9回 基準点測量 概要、三角測量と三辺測量の原理</p> <p>第10回 トラバース測量の種類と特徴、作業の順序、外業</p> <p>第11回 トラバース測量の内業 測角結果の誤差評価・調整、方位角の計算</p> <p>第12回 トラバース測量の内業 緯距・経距の計算、閉合誤差・閉合比、閉合誤差の調整、作図</p> <p>第13回 トラバース測量に関する演習問題</p> <p>第14回 細部測量 平板測量の目的、器械、平板の評定、方法</p> <p>第15回 授業内容の総括と達成度評価</p>
--------	--

<p>⑰ 授業時間外学習の内容(予習・復習等)</p>	<p>第1回 予習:教科書1.1～1.2を予習する(2時間) 復習:土木建築工学における測量の役割、測量の歴史について確認する(2時間) 第2回 予習:教科書1.3を予習する(2時間) 復習:地球の形状、緯度と経度、平面直角座標系、測量の原点(基準点)、測量の種類と測量法について確認する(2時間) 第3回 予習:教科書第2章を予習する(2時間) 復習:教科書第2章の演習問題を解く(2時間) 第4回 予習:教科書第3章を予習する(2時間) 復習:距離測量 距離の定義、巻尺および光による距離測量について確認する(2時間) 第5回 予習:教科書4.1～4.4を予習する(2時間) 復習:水準測量の目的、用語、器械と器具について確認する(2時間) 第5回 予習:教科書4.5～4.6を予習する(2時間) 復習:水準測量の観測の方法(昇降式と器高式)について確認する(2時間) 第7回 予習:教科書4.8を予習する(2時間) 復習:水準測量の誤差と調整、原因と消去法について確認する(2時間) 第8回 予習:教科書第4章を予習する(2時間) 復習:水準測量に関する演習問題について確認する(2時間) 第9回 予習:教科書第5章を予習する(2時間) 復習:基準点測量の概要、三角測量と三辺測量の原理について確認する(2時間) 第10回 予習:教科書6.1～6.3を予習する(2時間) 復習:トラバース測量の種類と特徴、作業の順序、外業について確認する(2時間) 第11回 予習:教科書6.4.1～6.4.3を予習する(2時間) 復習:トラバース測量の内業(測角結果の誤差評価・調整、方位角の計算)について確認する(2時間) 第12回 予習:教科書6.4.4～6.4.8を予習する(2時間) 復習:トラバース測量の内業(緯距・経距の計算、閉合誤差・閉合比、閉合誤差の調整、作図)について確認する(2時間) 第13回 予習:教科書第6章を予習する(2時間) 復習:トラバース測量に関する演習問題について確認する(2時間) 第14回 予習:教科書第8章を予習する(2時間) 復習:細部測量(平板測量の目的、器械、平板の評定、方法)について確認する(2時間) 第15回 予習:教科書および授業で実施した演習問題を予習する(2時間) 復習:授業内容の総括と達成度評価について確認する(2時間)</p>		
<p>⑱ 教科書</p>	<p>教科書は、大木正喜著「測量学」(森北出版、3,024円)を使用する。同教科書は、測量実習(2年・前期)、応用測量学及び実習(3年・後期)でも使用するので、必ず購入すること。</p>		
<p>⑲ 参考書・参考資料</p>	<p>各自講義ノート一冊と関数機能を有する(三角関数の計算が可能な)電卓を準備すること。</p>		
<p>⑳ 成績評価の基準・方法</p>	<p>成度は筆記試験で評価され、60点以上を合格のラインとする。定期試験は、主に、「水準測量」、「基準点測量(トラバース測量)」および「その他授業の中で取り上げた内容」について25%、50%および25%程度の割合で理解度を評価する。再試験および再々試験も行うが、合格は総合成績でそれぞれ65点以上および70点以上とする。試験は電卓持ち込み可。</p>		
<p>㉑ 成績評価種別</p>	<p>筆記試験</p>	<p>○</p>	<p>筆記試験以外</p>
<p>㉒ 実務経験を有する教員による授業科目</p>			
<p>㉓ 実務経験を踏まえた授業の内容</p>			
<p>㉔ その他</p>	<p>教科書および講義ノートを中心にプリント等を使用し、講義形式で行う。授業では、適時自らの達成度を確認するための演習やレポート課題を実施する。これらの演習や課題は、全て講義ノートに記入し提出する。 建築士試験指定科目の分類⑩その他への対応科目である。 授業時間外に達成度評価の結果を個別に講評します</p>		
<p>㉕ 地球温暖化対策・環境・エネルギー関連科目</p>		<p>㉖ ナンバリング</p>	<p>DD-411202</p>

に塗り潰されているセルはシステムデータが表示されます。編集は出来ません。

に塗り潰されているセルは教務課が登録します。編集不要です。

〈令和3年度シラバス登録ガイドライン〉

①科目名

- ・システムデータが表示され、編集はできません。

②(副題)

- ・主題別ゼミナール等で副題がある場合のみ記入し、クラス分け情報などは記入しないでください。

③英語名称

- ・科目名の英語名称を記入してください。

④学年

- ・システムデータが表示され、編集はできません。

⑤開講期

- ・前期、後期、通年、集中など開講期を記入してください。

⑥必修／選択

- ・学則記載の各学科課程表の必修または選択を記入し、コースにより必修となる場合はその旨記入してください。

記入例	選択(〇〇コースは必修)、選択(〇〇コースは必修、△△コースは選択)
-----	------------------------------------

⑦単位数

- ・システムデータが表示され、編集はできません。

⑧担当教員

- ・システムデータが表示され、編集はできません。

⑨研究室・連絡先

- ・学生がオフィスアワーに来室できるよう「居室」、および連絡先として「電話番号」、「メールアドレス」を記入してください。

記入例	機械工学科専門棟3階 M333 研究室(建物名、階、部屋番号、室名) TEL : 0178-25-8888、E-mail : aiueo@hi-tech.ac.jp
-----	---

⑩オフィスアワー

- ・学生が事前の約束なしでも授業担当教員に面会できる時間帯を設定し記入してください。また、学生にとって訪問機会を増やすために複数設定することが望まれます。

- 1) 時間帯を明確に示す。 例：【月曜日， 16：00～17：00】
- 2) 随時受付，メールによる予約受付などの設定はしない。
- 3) 学生に周知されるように，研究室入口などに掲示する。

記入例	月曜日 16:00 から 17:40 または水曜日 10:00 から 12:00
-----	--

【用語解説】 文部科学省・私立大学等改革総合支援事業

「オフィスアワー」とは、授業科目等に関する学生の質問・相談等に応じるための時間として、教員があらかじめ示す特定の時間帯（何曜日の何時から何時まで）のことであり、その時間帯であれば、学生は研究室を訪問することが出来るものをいう。

⑪八戸工業大学ディプロマ・ポリシーと当該授業科目との関連（大学院科目は入力不要）

- ・八戸工業大学で掲げるディプロマ・ポリシー1)～4)に対して、当該授業科目が該当する教育目標に“○”を記入してください。複数の目標に“○”を記入しても構いません。最低一つに“○”を記入してください。

八戸工業大学ディプロマ・ポリシー（平成29年1月19日改正）

- 1) 豊かな人間性と総合的な判断力
- 2) 社会の変化に対応できる柔軟な思考力
- 3) 専門分野の基礎原理の理解と高度応用展開力
- 4) 地域社会への関心をもちグローバルな視点で物事を考える姿勢

⑫授業の要素（R3変更有り）

- ・開講する科目の授業内容に該当する要素に対して“◎および○”を記入してください。◎は主要な授業形態、○は付随的な授業形態とし区別してください。複数の要素に該当する場合は複数の要素に“◎および○”を記入してください。なお、◎のみでも構いません。
- ・授業時間外学習の確保・把握や対話型・双方向型授業の促進、学習の動機付け、学習効果の向上等を目的として講義や演習形式の科目において反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識の確認や定着、活用等の要素を教室で行う授業形態）の導入について可能な範囲（一部でも可）で検討してください。なお、反転授業を通じて達成度の確認を行うこともできます。

例えば、①ある事柄について、事前にその内容や背景、問題点について授業時間外学習として学び、授業では演習等により知識の定着や理解度を高める、②事前学習をもとに授業内で討論やプレゼンテーションを行う、③教員が提示したテーマについて事前に学習しレポート（ノート）を作成、授業で討論、その後に最終レポート（ノート）を提出する、などが考えられます。

※私立大学等改革総合支援事業ではアクティブ・ラーニング（AL）の要素（PBL、反転授業、ディスカッション・ディベート、グループワーク、プレゼンテーション、実習・実技、フィールドワーク、実験）を含む科目の開講率が評価項目としてあります。令和2年度のシラバスでは開講科目のうち50%を超える科目でALの要素が導入されています。引き続き、授業内の一部でも構いませんのでALの要素を取り入れた授業内容をご検討いただき、該当する要素に“○”を記入してくださいようお願いします。

また、R3年度より遠隔授業の項目を追加しましたので、該当する場合には記入漏れの無いようお願いいたします。

⑬授業の到達目標

- ・学生がこの授業を履修し、到達目標に達した結果、獲得することのできる知識やスキルを学生にもイメージできるよう、具体的かつ平易に記入してください。
 - 1) 現実的な表現で、学生を主体として書いてください
学生が、授業終了後「こんなことができる」、「こんなことを知ることができる」というような身に付く能力をイメージできるように記入してください。

記入例	学生を主体とする文：箇条書きで記入 [1] 英語での基本的な日常会話に必要な英語表現に関する知識を身につけます。 [2] 自然なスピードで話されている英語を聞き取り、主な内容を把握できるようになります。 [3] TOEIC のリスニングパートに関して、入学時よりも高い点数が取れるようになるためのリスニング力を養います。
-----	---

注：授業において最低限学生が身につける内容を示す目標

⑭授業の概要

- ・学生が授業の全体を把握できるよう授業の概要を記入してください。

⑮学習・教育目標との関連・時間

- ・学習・教育目標との関連と授業時間（実時間）の合計等を記入してください。

記入例	(B)自然科学、工学、情報技術の基礎知識の活用の習得 15 時間、(D)専門知識の基礎と応用能力の素養、社会の課題に対する実践的な対応力の習得 7.5 時間、計 22.5 時間の授業を行う。
-----	---

⑯授業計画

- ・学生の予習や復習の参考にもなるよう授業の進度に即した各回（週）の具体的な内容を記入してください。

1) 授業計画中の定期試験の表記について

平成 20 年の中央教育審議会答申「学士課程教育の構築に向けて」においてでは、単位の実質化を重視する観点から、下記のような記述が示されました。

「・・・1 単位当たりの授業時間数が、大学設置基準の規定に沿っている必要がある。具体的には、講義や実習等の授業の方法に応じて 15～45 時間とされており、講義であれば 1 単位当たり最低でも 15 時間の確保が必要とされる。これには定期試験の期間を含めてはならない。」

この中教審答申を踏まえ、認証評価機関では、定期試験を 15 週の期間に含めている場合には、改善するよう各大学に対して指摘を行っています。

15 回目に実施する定期試験については、「①授業のまとめのあと試験を行う」、「②試験を行いその解説をする」など、単に試験を実施するだけでなく、まとめや解説を併せて授業の一環として実施するとともに、シラバスの表記を見直してください。なお、中間試験等を実施する場合においても同様の対応をお願いします。

2) 授業計画におけるガイダンスの取り扱いについて

第 1 回目の授業内容について、ガイダンス単独での実施は授業とみなされませんので、ガイダンスとあわせて授業を行うなどの対応をお願いします。ガイダンスを複数に分けて実施する場合等、2 回目以降でガイダンスを行う場合も同様の対応をお願いします。

3) 課題（試験やレポート等）に対するフィードバック方法の明記について

試験の講評・解説の時間を設定、または、試験やレポート等の添削・返却など、課題に対するフィードバック方法を明記してください。

なお、授業時間外にメールや学内システム等を利用してフィードバックを行う場合は、その内容を④その他に記載してください。

4) 複数教員が担当する授業（オムニバス形式あるいは共同形式）について (R3 追加)

授業回ごとに担当する教員名を明記してください。なお、毎回全教員が担当する場合は各回に明記する必要はありません。毎回全教員が担当することを明記してください。

5) 授業内容の記載について (R3 追加)

複数回にわたって演習やまとめ等を実施する場合は、単に「演習①、演習②、・・・」、「まとめ 1、まとめ 2、・・・」の様に記述することを避け、具体的な内容を明記してください。

記入例	第 1 回 ガイダンス、プログラミングとは、Cプログラムの作成と実行（目標 D,E） (担当:○○○○)
	第 2 回 画面表示① (printf 文) -文字の表示（目標 D,E） (担当:○△□□)
	第 3 回 Cプログラミングの基礎、画面表示② (printf 文) -変数の宣言と表示（目標 D,E） (担当:□□□)
	・
	・

<p>第 13 回 演習①–演習問題の実施と解説 (目標 D,E) (担当:○○○○)</p> <p style="text-align: center;">第 1 回から第 5 回までの内容に関する演習問題を行う</p> <p>第 14 回 演習②–演習問題の解答と解説 (目標 D,E) (担当:○○○○)</p> <p style="text-align: center;">第 6 回から第 12 回までの内容に関する演習問題を行う</p> <p>第 15 回 演習③–演習問題の解答と解説 (目標 D,E) (担当:○△□□)</p> <p style="text-align: center;">全範囲を対象とする複合的な演習問題を行う</p> <p>第 16 回 定期試験 (目標 D) (担当:○△□□、□□□)</p> <p>または</p> <p>第 1 回 ガイダンス、プログラミングとは、Cプログラムの作成と実行 (目標 D,E)</p> <p>第 2 回 画面表示① (printf 文) –文字の表示 (目標 D,E)</p> <p>第 3 回 Cプログラミングの基礎、画面表示② (printf 文) –変数の宣言と表示 (目標 D,E)</p> <p style="text-align: center;">.</p> <p>第 13 回 演習①–演習問題の実施と解説 (目標 D,E)</p> <p style="text-align: center;">第 1 回から第 5 回までの内容に関する演習問題を行う</p> <p>第 14 回 演習②–演習問題の解答と解説 (目標 D,E)</p> <p style="text-align: center;">第 6 回から第 12 回までの内容に関する演習問題を行う</p> <p>第 15 回 授業のまとめのあと試験を行う (目標 D)</p> <p style="text-align: right;">(全ての授業回を全担当教員が担当する)</p>

記入例	提出されたレポート等の課題は、添削後に返却します。 試験の解答および解説は UNIPA で配信します または 居室前に掲示します。 など
-----	---

⑰授業時間外学習の内容 (予習・復習等)

- 単位の実質化を図るため、1 単位の修得に必要な学習時間数 45 時間を学生に認識させるようご指導ください。週時間数は学則別表第 1 に規定の時間で計算してください。
1 単位の例：講義受講 30 時間 (2 時間×15 週) + 自宅学習 15 時間) = 45 時間
2 単位の例：講義受講 30 時間 (2 時間×15 週) + 自宅学習 60 時間) = 90 時間
- 授業計画の「各回の内容に対応させた授業時間外学習 (予習・復習等)」について、可能な限り具体的な指示を記入してください。授業の形態や内容によって「各回の内容に対応させた授業時間外学習 (予習・復習等)」を逐一指示することが困難な場合はまとめて記入してください。また、予習・復習に必要な時間数も具体的に指示してください。

2 単位の例：自宅学習 60 時間 ÷ 15 週 = 4 時間 一週当たり 4 時間の予習復習等が必要

記入例	第 1 回 予習：教科書の概要を確認する。 (2 時間)
	復習：地球の構造と環境について確認する。 (2 時間)
	第 2 回 予習：教科書○○p～○○p「農業による自然環境破壊」を予習すること。 (2 時間)
	復習：環境破壊の歴史、農業について確認する。 (2 時間)
	第 3 回 予習：教科書○○p～○○p「工業による自然環境破壊」を予習すること。 (2 時間)

	<p>復習：化学工業がもたらす環境破壊について確認する。 (2時間)</p> <p>・</p> <p>・</p> <p>第14回 予習：教科書○○p～○○p「資源循環と環境保全」を予習すること。(2時間) 復習：プラスチックの種類と今後、リサイクルと省エネルギーについて確認する。 (2時間)</p> <p>第15回 予習：教科書、ノートを復習する。環境に寄与する科学技術を考案すること。 (2時間)</p> <p>復習：試験問題と解答を確認する。 (2時間)</p> <p>第1回 教科書の○○p～○○pを参照して、第5回授業までに指示された作品を提出すること (第5回授業までに予習・復習・作品制作で計20時間)</p> <p>第1回 授業終了時に示す課題について、次回の授業までにレポートを作成すること (復習およびレポート作成で計4時間)</p> <p>第2回 授業開始時に前回授業に関する小テストを実施するので復習しておくこと (復習および小テスト対策で計4時間)</p> <p>または</p> <p>第6回の課題発表までに、与えられた課題への取り組み方法等を検討し、指定様式により実施計画書等を電子ファイルで提出すること。 (25時間)</p> <p>第11回の中間発表までに、与えられた課題の解決手法の検討、実施計画書の作成を行うこと。 (30時間)</p> <p>第15回の最終発表までにパワーポイントによるプレゼンテーション資料を作成すること。 また、取組結果を指定様式にまとめて・・・ (40時間)</p>
--	---

- ・他大学の準備学習について以下に掲載しています。
Garoon ファイル管理 / 学務部 / 教務課 / シラバス / 【シラバスへの準備学習記入例 2019.pdf】

⑱教科書

- ・教科書を使用するかどうかを記入し、使用する場合は学生が購入することを考慮し、書名、著者名、出版社、出版年、価格を明記してください。

⑲参考書・参考資料

- ・参考文献として紹介する資料がある場合にも、教科書と同じように明記してください。その他授業内容の理解を深めるための配布資料がある場合には、その形態（授業でハードコピーを配付する、特定のサイトから各自ダウンロードする等）を記入してください。

②成績評価の基準・方法

- ・「到達目標」に対する学習成果の達成度を適切に評価できる方法を記入してください。定期試験受験資格（出席状況）、定期試験、授業期間中のレポート、小テスト（定期試験以外に行う随時の試験）など成績評価にかかわる方法を具体的に列挙し、それらの割合や配点も明記してください。また、再試験実施予定の場合は、再試験の成績評価基準も記入してください。複数の成績評価方法により、学期を通じて学生の学習を促すようご配慮ください。
- ※成績評価の内容で「・・課題提出物から総合的に判断する・・」は、評価基準（評価項目、割合や配点）を記入してください。

記入例	講義の3分の2以上に出席した学生を対象に定期試験を行う。定期試験までに3回の小レポートを課し、その成績と定期試験の合計点により評価する。 定期試験40点、小レポート60点（20点×3回）、合計100満点、60点以上で合格とする。
-----	---

■成績評価基準の「出欠状況・出席点」の取扱いについて

※2009年早稲田大学教職課程実地視察での文部科学省からの指摘事項

- ・授業科目として、授業に出席するのは当然のことであるため、出席のみで加点するような評価方法は見直すこと。
- ・出席を評価に加えている授業があるが、原則として授業に出席することが通常のため、出席を評価に加えないでほしい。
- ・「学生に対する評価」欄において出席のみで一定の評価を与えることは望ましくないため、評価方法を改善してほしい。

■文部科学省の指導に伴うシラバスの「成績評価の方法」の記載内容の修正例

(1) 成績評価「平常点」欄において出席点・出席率・出席状況等を記載している場合は削除または「主体的（積極的）な授業参加度」等に変更して対処する。

【例】変更前：平常点30% 出席点とする

変更後：平常点30% 主体的な授業参加態度を重視する

(2) 成績評価「その他」欄において出席点・出席率・出席状況等を記載している場合は削除または「平常点」欄に割合を移行して対処する。

【例】変更前：平常点20%、レポート20%、定期試験50%、出席点10%

変更後：平常点30%、レポート20%、定期試験50%

②成績評価種別

- ・【筆記試験】、【筆記試験以外】の該当するものに、“○”を入力（複数可）してください。
- 【筆記試験】：定期試験、小テストでの評価
- 【筆記試験以外】：「演習・実習・実技」、「レポート・論文」、「口答発表・プレゼンテーション」、「製作物（図面、模型等）」等で成績評価を行う場合は、そのルーブリックを学生に開示することを原則とする。
- ・ルーブリックとは、授業の到達目標を具体的な構成要素（評価項目[能力・知識・態度など]）ごとに分類し、その評価基準（○○○ができる）を示したものであり、学修支援の観点から以下の効果が期待される。
- 筆記試験では評価が難しい複雑な能力を評価する場合、大きな目標を処理しやすい項目・観点に分割し、アウトカムズ・ベース（○○○ができる）で評価することにより、学修者が達成度を確認しやすくなる。
 - 具体的な評価基準（○○○ができる）を学修者に伝えることで、学修活動を方向づけし、目標に到達しやすくなる。

当面は、これまで教員が実施してきた成績評価の指針をルーブリック化する程度でもよい。

②実務経験を有する教員等による授業科目

・当該授業に関係する実務経験がある教員等が担当する場合は“○”を記入してください。オムニバス形式で15回中1回でも実務経験のある教員が担当する場合も“○”を記入してください。ただし、その場合は「③実務経験を踏まえた授業の内容」の欄に第○回目を担当するかも記入してください。

※「実務経験を有する教員等による授業科目」に関する文科省のFAQ（抜粋）を最終ページに掲載していますので確認してください。

③実務経験を踏まえた授業の内容

・実務経験を持つ担当教員が、その経験を活かしてどのような授業を行うのかを具体的に記入してください。

例) 文化観光課にて地域振興業務を3.5年行っていた場合。

文章例) 地方自治体での地域振興業務に関する経験を活かし、地域文化の継承、地域活性化の在り方について、産学官民が連携する場合の注意点等、実例を交えて解説する。

語尾例) ～について講義する。～の実習を指導する。～を学ぶ授業を担当する。

④その他

・履修学生に希望することや履修に関する注意事項・連絡事項等を記入してください

記入例	実習では、安全性確保のため「つなぎ服」着用を義務づける。個人で購入の上、実習に出席すること。
-----	--

⑤地球温暖化対策・環境・エネルギー関連科目

・授業担当者が「地球温暖化対策・環境・エネルギー」に関連する科目であると判断した場合には、“○”を記入してください。

⑥ナンバリング

・教務課が最後に一括して登録しますので、入力・編集は不要です。

『実務経験を要する教員等による授業科目』に関するFAQ（抜粋）

Q 「実務経験のある教員等による授業科目」とは、どのような科目を指すか。

A 「実務経験のある教員等による授業科目」とは、担当する授業科目に関連した実務経験を有している者が、その実務経験を十分に授業に活かしつつ、実践的教育を行っている授業科目を指す。実務経験があっても、担当する授業科目の教育内容と関わりがなく、授業に実務経験を活かしているとは言えない場合は対象とはならないことに注意すること。

また、必ずしも実務経験のある教員が直接の担当でなくとも、例えば、オムニバス形式で多様な企業等から講師を招いて指導を行う場合や、学外でのインターンシップや実習等を授業の中心に位置付けているなど、主として実践的教育から構成される授業科目もこれに含む。必修科目、選択科目又は自由科目の別を問わない。卒業要件単位数又は授業時数に算入されない科目であっても構わない。

Q 「実務経験」は、どのような内容であることが必要なのか。

A この要件における「実務経験」は、教員が担当する授業科目に関連する実務経験であることが必要であるが、これを満たしていれば、実務経験の具体的な内容については問わない。従って、どのような組織や場所における実務経験であっても差し支えないし、どのような期間の実務経験であっても差し支えない。ただし、他の大学等における教員としての勤務経験は、原則として「実務経験」には該当しないことに注意すること。

Q 「実務経験」は、過去の実務経験でも良いか。現在携わっている必要があるか。

A 過去の実務経験であるか、現に実務に携わっているかを問わない。実務経験のある時期や期間について定めはなく、実践的教育を行うという要件設定の趣旨を踏まえ、大学として説明責任を果たせる授業科目を計上すること。

Q 「実務経験のある教員」は、他の大学等と兼務でもよいか。

A 常勤教員か、非常勤教員かを問わないため、他の大学等と兼務でも差し支えない。

Q 他の学校や研究機関など、学外での教育や研究の経験は「実務経験」に含まれるか。

A 学問追究と実践的教育のバランスを求める趣旨に鑑みると、ここでいう「実務経験」は、大学等における教育研究活動ではない「実務」の経験を指すものであり、他の大学等における教員としての勤務経験は、「実務経験」には該当しない。（例外として、教員養成課程の授業科目を担当する教員が初等中等教育の学校における教員としての勤務経験は、「実務経験」に該当する。また、大学附属病院において医師や看護師としての勤務経験を有する教員も「実務経験」のある教員に該当する。）

Q オムニバス形式の授業やインターンシップ等を対象として計上する場合について、回数などの基準はあるか。

A 回数などの基準はなく、大学等として対外的に責任を持って、実践的教育が行われる授業科目であると説明できることが必要である。

Q 複数の大学等で共同して開設する授業科目をも計上することができるか。

A 自校を含めた複数の大学等が共同して開設する授業科目も、計上することができる。

Q 一つの授業科目に二つのクラスが設けられており、例えば、Aクラスに属する学生は、「実務経験のある教員等」が担当するが、Bクラスに属する学生は、「実務経験のある教員等」ではない者が担当する場合、当該授業科目を計上することは可能か。

A 本要件においては、授業科目ごとに「実務経験を有する教員等による授業科目」であるかどうかを判断することとなる。実務経験を有する教員等が担当する授業科目を一クラス分開設する場合は、そのクラスの学生、すなわち当該授業科目を履修するすべての学生が実務経験を有する教員等の指導を受けられるが、設問のような場合には、Bクラスの学生は実務経験を有する教員等の指導を受けることができない。従って、同一の授業科目を複数のクラスで実施し、いずれかのクラスでは実務経験を有する教員等でない者のみが担当する場合は、当該授業科目を「実務経験を有する教員等が担当する授業科目」として扱うことは適切ではないと考えられる。一方で、すべてのクラスで実務経験を有する教員等が担当する場合は、要件を満たす授業科目として扱うことが可能である。

八戸工業大学履修規程(案)

制定 平成14年 2月21日 (教授会)

改正 令和 3年 *月**日 (教授会)

(趣旨)

第1条 この規程は、八戸工業大学学則に規定するものの他、授業科目の履修について必要な事項を定める。

(学科、コース及びプログラムの履修等)

第2条 授業科目(以下「科目」という。)及び単位数は、学則別表第1に定めるとおりとする。

2 学則第23条第3項に規定する工学科の各コースの修了要件として、履修プログラムを次のとおり定める。

学部	学科	コース	履修プログラム
工学部	工学科	機械工学	機械工学 機械工学総合 自動車工学
		電気電子通信工学	電気電子通信工学
		システム情報工学	システム情報工学
		生命環境科学	生命環境科学
		建築・土木工学	建築学 土木工学

- 一 コースは入学時に選択し、2年進級時に決定とする。なお、コースの状況により受入人数を調整することがある。
- 二 教育上必要と認められる場合は、3年進級時のコース変更を許可することがある。
- 三 学生は、いずれかのコースを修了するために、別表1に定める要件を満足するよう履修しなければならない。
- 3 学生は、感性デザイン学科を卒業するために、別表2に定める要件を満足するよう履修しなければならない。
- 4 学則第23条第4項に規定する分野横断型のプログラムとして、発展プログラム及び特別養成プログラムを次のとおり定める。各プログラムの履修科目等は別表3に定めるとおりとする。

学部	学科	コース	発展プログラム	特別養成プログラム

工学部	工学科	機械工学	原子力工学 ロボット工学	スーパーエンジニア養成
		電気電子通信工学		
		システム情報工学		
		生命環境科学	海洋学（海洋生態）	
		建築・土木工学	海洋学（海洋土木）	
感性デザイン学部	感性デザイン学科	—	—	地域活性化リーダー養成

（履修登録と履修）

第3条 科目の履修にあたっては、当該年度に履修しようとする全科目について履修登録を行わなければならない。

- 2 履修登録の時期は、学年の初めとし、所定の期間をすぎた履修登録は原則として認めない。
- 3 履修登録しない科目は、受講しても単位は与えない。
- 4 上位学年次に配置される科目は、履修登録することはできない。ただし、科目担当教員の判断により、留年した学生に限り履修登録を認める場合がある。
- 5 第8条第4項の受講免除科目を除き、同一時限に行われる科目を2科目以上重複して履修登録することはできない。
- 6 履修登録の有効期限は、当該年度限りとする。
- 7 欠席した授業については、学生自身が自学自習によって補うことを原則とする。ただし、科目担当教員の判断により、課題・補習等を課す場合がある。

（履修登録の修正）

第4条 履修登録科目の修正は、各学期の所定の期間において行うことができる。

（履修登録単位数の上限）

第5条 当該年度において履修登録することができる単位数の上限は、前期開講科目24単位以内、後期開講科目24単位以内、かつ年間合計44単位までとする。

- 2 前項の規定にかかわらず、次の各号に掲げる者は履修登録単位数の上限を超えて登録することができる。
 - 一 前学年の年度GPAが2.8以上の学生は、前期開講科目28単位以内、後期開講科目28単位以内、かつ年間合計48単位まで履修登録できる。
 - 二 学科長が特に必要と認める学生にあつては、履修登録単位数の上限を超えて登録することができる。
- 3 通年開講科目の履修登録単位数は、その2分の1をそれぞれ各学期の履修単位数に算入するものとする。
- 4 次の各号の授業科目の単位は、履修登録することができる単位数の上限には含ま

れない。

- 一 キャリアデザインⅠ、キャリアデザインⅡ、キャリアデザインⅢ
- 二 集中講義科目
- 三 進級要件・卒業要件に算入されない科目（教職関連科目、リメディアル科目等）
- 四 学則別表第1に定める特別専攻科目
- 五 受講免除科目
- 六 認定科目
- 七 長期休業期間に開講される科目

（履修の制限）

第6条 授業内容、施設等の状況、習熟度によって、履修を制限することがある。

- 2 第2条第4項に定める分野横断型のプログラムによっては、対象学科又はコース以外の学生の履修を制限することがある。

（成績の評価と単位の修得）

第7条 成績の評価は科目担当教員が行い、評価は次のとおりとする。

評価	評価の点数	合否
S	90点以上～100点	合格
A	80点以上～90点未満	
B	70点以上～80点未満	
C	60点以上～70点未満	
D	60点未満	不合格

- 2 単位の修得は、上表の合格の場合に認定される。ただし、学費等の未納期間の単位は認定されない。

（再履修登録）

第8条 単位が認定されなかった科目（以下「再履修科目」という。）は次の年度以降に履修することができる。

- 2 必修科目を指定の年次に修得できなかったときは、その科目を他に優先して履修しなければならない。
- 3 単位が認定された科目は、再び履修登録することができない。
- 4 再履修科目の履修登録にあたり、科目担当教員が認めた場合は、受講を免除することがある。

（他学部・他学科科目の履修）

第9条 所属学科以外の科目（講義科目）を履修したいときは、所定の手続きを経て

10単位を限度として進級要件、卒業要件の選択科目の単位として修得することができる。

(単位互換科目の履修)

第10条 単位互換協定を締結した他大学において開講される科目を履修したいときは、所定の手続きを経て30単位を限度として進級要件、卒業要件の選択科目の単位として修得することができる。ただし、1学年の履修は認めない。

(成績の通知)

第11条 成績は、所定の学業成績通知書をもって本人および保護者に通知する。

2 学業成績通知書には、評価をS、A、B、C、Dで記載し、あわせてGPA(Grade Point Average)を記載する。

3 GPAの取り扱いについては別に定める。

(定期試験)

第12条 定期試験は年2回各学期末の一定期間に行う。

2 試験の時間割は試験実施の2週間前に公表する。

3 試験は原則として筆答によるが、平常の成績のほか、レポート、口答および実技をもって試験に代えることができる。

(追試験)

第13条 学生に病気、その他やむを得ぬ事情が生じて、定期試験を受けられないときは追試験の機会を与える。

2 追試験受験の可否の判定は学生の願い出(医師の診断書、保証人の証明書など添付)にもとづき科目担当教員が行う。

3 追試験を受けようとする者は、追試験時までに追試験受験手続きを行わなければならない。追試験料は別表4のとおりとする。

(再試験)

第14条 定期試験、追試験に合格できなかった者に対して、再試験の機会を与えることがある。

2 再試験の受験資格は、科目担当教員の認定による。

3 再試験を受けようとする者は、再試験時までに再試験受験手続きを行わなければならない。再試験料は別表4のとおりとする。

4 再試験の成績は、定期試験と同等またはそれ以上の基準で評価する。

(受験資格)

第15条 定期試験の受験資格は次の要件を満たした者に与える。

一 当該科目の履修登録をしていること。

二 原則として、出席時数が授業時数の3分の2以上であること。ただし、実験、実

習、演習および実技科目については、これ以上の出席時数を必要とする場合がある。
三 教授会において特に失格条件がないことを認められていること。ただし、二の号
に関して考慮すべき事情のある学生は科目担当教員に届け出て、科目担当教員が受
験資格の有無を判定する。

(進級要件)

第16条 各学年において上位の学年に進級するためには、別表5の要件を満たしてい
なければならない。

(受験の心得)

第17条 学生は学生証を持参し、指示する座席につき厳正に受験しなければならない。
なお、学生証を携帯していない場合は、受験票(学生証不携帯)の交付を受けて受
験しなければならない。受験票(学生証不携帯)の交付手数料は別表4のとおりと
する。

2 原則として、試験開始20分後の入場を認めない。また、試験開始後30分以上
経過するまで退場を認めない。

3 試験は監督教員の指示で行われる。試験に際し、不正行為を行った学生には学則
第57条により懲戒を行う。かつ、その学期に受験した科目はすべて零点とする。

4 実験、実習、製図および実技科目については、開講学年において単位を修得する
ことを原則とし、修得できない場合は以後の履修科目を制限することがある。

(規程の改廃)

第18条 本規程の改廃は、教授会の議を経て学長が行う。

附 則

この規程は、平成14年4月1日から施行する。

この規程の施行により、従前の八戸工業大学試験施行規則は廃止する。ただし、平成
13年度以前に入学した学生の進級要件は廃止前の同規則の規定による。

附 則

1. この規程は、平成15年4月1日から施行する。

附 則

1. この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

1. この規程は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

1. この規程は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

1. この規程は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

1. この規程は、平成22年4月1日から施行する。

2. この規程の施行により、従前の八戸工業大学試験施行規則は廃止する。ただし、平成16年度以前に入学した学生の進級要件は廃止前の同規則の規定による。

附 則

1. この規程は、平成23年4月1日から施行する。

2. 第5条、第9条第2項および第3項については、平成22年度以前に入学した学生は従前の規定を適用する。

附 則

1. この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

1. この規程は、平成28年4月1日から施行する。

附 則

1. この規程は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

1. この規程は、令和2年4月1日から施行する。

2. 別表3については、平成29年度以前に入学した学生については従前の規定を適用する。

3. ロボット工学プログラムは、令和2年度入学生より適用する。

附 則

1. この規程は、令和4年4月1日から施行する。

2. 令和3年度以前に入学した学生については従前の規定を適用する。

別表1

工学部 工学科 機械工学コース(機械工学プログラム、機械工学総合プログラム、自動車工学プログラム) 履修表

令和4年度入学生より適用

区分	分野	授業科目	単位数	機械工学コース			修了に必要な 修得単位数	年次および週時間数													
				機械工学 プログラム	機械工学総 合プログラム	自動車工学 プログラム		1年		2年		3年		4年							
				前期	後期	前期		後期	前期	後期	前期	後期									
キャリア教育科目		キャリアデザインⅠ	1	○	○	○	左記の科目から5単位	1	1												
		キャリアデザインⅡ	1	○	○	○				1	1										
		キャリアデザインⅢ	1	○	○	○						1	1								
		職業倫理	2	○	○	○						2									
総合 教養 科目	人間科学	心理学	2				左記の科目 から6単位以 上			2											
		哲学	2								2										
		文学	2									2									
		日本国憲法	2											2							
		歴史	2																		
		経済学	2							2	2										
		知的財産論	2											2							
	国際コミュニケーション	日本語表現法	2	○			左記の科目 から8単位以 上 英語科目か ら4単位以上	左記の科目 から18単位 以上	2												
		実践日本語表現	2	○									2								
		異文化コミュニケーション	2																		2
		総合英語	2								2										
		実践英語	2								2										
		教養英語	2								2										
		英語会話	2								2										
		英語表現	2								2										
		Global English	2										2								
		English Communication	2										2								
	English Reading	2								2											
	Technical English	2								2											
	中国語Ⅰ	中国語Ⅰ	2						2												
中国語Ⅱ		2							2												
中国語Ⅲ		2								2											
体育科学	体育学	1						2													
	生涯スポーツ演習	1							2												
	スポーツ健康学	1								2											
総合学際	主題別ゼミナールⅠ	1							2												
	主題別ゼミナールⅡ	1									2										
	海外研修	1							2												
AI・データサイエンス科目	AI・データサイエンス入門	2	○	○	○	左記の科目から2単位以上		2													
	データアナリティクスⅠ	2										2									
	データアナリティクスⅡ	2												2							
共創教育科目	工学概論	2	○	○	○	左記の科目から4単位以上		2													
	デザインと技術	2	○	○	○						2										
	北東北八戸の地域学	2	○												2						
	共創デザイン演習	2																			
工学基礎科目	微分積分	2	○	○	○	左記の科目から14単位以上		2													
	線形代数	2	○	○	○					2											
	確率・統計	2	○									2									
	基礎物理学Ⅰ	2	○							2											
	基礎物理学Ⅱ	2	○								2				2						
	応用物理学概論	2																			
	物理学実験	2	○							4											
	基礎化学Ⅰ	2								2											
	基礎化学Ⅱ	2									2										
	化学実験	2								4											
生命科学	2						2														
小計		91					41	19	19	11	9	3	2	0							

[○]印は履修プログラムの必修科目

別表1

工学部 工学科 電気電子通信工学コース(電気電子通信工学プログラム) 履修表

令和4年度入学生より適用

区分	分野	授業科目	単位数	電気電子通信工学コース		年次および週時間数									
				電子通信工学プログラム	修了に必要な 修得単位数	1年		2年		3年		4年			
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
キャリア教育科目		キャリアデザインⅠ	1	○	左記の科目から5単位	1	1								
		キャリアデザインⅡ	1	○				1	1						
		キャリアデザインⅢ	1	○						1	1				
		職業倫理	2	○						2					
総合 教養 科目	人間科学	心理学	2		左記の科目 から6単位以 上			2							
		哲学	2						2						
		文学	2						2						
		日本国憲法	2								2				
		歴史	2					2							
		経済学	2					2							
		知的財産論	2							2					
	国際コミュニケーション	日本語表現法	2		左記の科目 から8単位以 上	左記の科目 から18単位 以上	2								
		実践日本語表現	2							2					
		異文化コミュニケーション	2												2
		総合英語	2						2						
		実践英語	2						2						
		教養英語	2						2						
		英語会話	2						2						
		英語表現	2						2						
		Global English	2								2				
		English Communication	2								2				
	英語科目から4単位以上	English Reading	2						2						
		Technical English	2						2						
		中国語Ⅰ	2				2								
中国語Ⅱ	中国語Ⅱ	2					2								
	中国語Ⅲ	2						2							
	体育科学	体育学	1				2								
生涯スポーツ演習		1					2								
スポーツ健康学		1						2							
総合学際	主題別ゼミナールⅠ	1					2								
	主題別ゼミナールⅡ	1						2							
	海外研修	1					2								
AI・データサイエンス科目	AI・データサイエンス入門	2	○	左記の科目から2単位以上		2									
	データアナリティクスⅠ	2							2						
	データアナリティクスⅡ	2								2					
共創教育科目	工学概論	2	○	左記の科目から4単位以上		2									
	デザインと技術	2	○					2							
	北東北八戸の地域学	2									2				
	共創デザイン演習	2													
工学基礎科目	微分積分	2	○	左記の科目から14単位以上 物理学実験、化学実験のい ずれかを修得		2									
	線形代数	2	○					2							
	確率・統計	2							2						
	基礎物理学Ⅰ	2	○					2							
	基礎物理学Ⅱ	2	○						2						
	応用物理学概論	2								2					
	物理学実験	2						4							
	基礎化学Ⅰ	2						2							
	基礎化学Ⅱ	2							2						
	化学実験	2						4							
	生命科学	2						2							
小計			91			41	19	19	11	9	3	2	0		

[○]印は履修プログラムの必修科目

別表1

工学部 工学科 システム情報工学コース(システム情報工学プログラム) 履修表

令和4年度入学生より適用

区分	分野	授業科目	単位数	システム情報工学コース		年次および週時間数								
				システム情報工学プログラム	修了に必要な 修得単位数	1年		2年		3年		4年		
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
キャリア教育科目		キャリアデザインⅠ	1	○	左記の科目から5単位	1	1							
		キャリアデザインⅡ	1	○		1	1							
		キャリアデザインⅢ	1	○				1	1					
		職業倫理	2	○						2	2			
総合 教養 科目	人間科学	心理学	2		左記の科目 から6単位以 上			2						
		哲学	2					2						
		文学	2					2						
		日本国憲法	2								2			
		歴史	2											
		経済学	2					2						
		知的財産論	2								2			
	国際コミュニケーション	日本語表現法	2		左記の科目 から8単位以 上	2								
		実践日本語表現	2						2					
		異文化コミュニケーション	2										2	
		総合英語	2				2							
		実践英語	2				2							
		教養英語	2				2							
		英語会話	2				2							
		英語表現	2				2							
		Global English	2							2				
		English Communication	2							2				
	英語科目から4単位以上	English Reading	2						2					
		Technical English	2						2					
		中国語Ⅰ	2			2								
中国語Ⅱ	中国語Ⅱ	2				2								
	中国語Ⅲ	2					2							
	中国語Ⅲ	2						2						
体育科学	体育学	1			2									
	生涯スポーツ演習	1				2								
	スポーツ健康学	1					2							
総合学際	主題別ゼミナールⅠ	1				2								
	主題別ゼミナールⅡ	1					2							
	海外研修	1					2							
AI・データサイエンス科目	AI・データサイエンス入門	2	○	左記の科目から2単位以上	2									
	データアナリティクスⅠ	2						2						
	データアナリティクスⅡ	2							2					
共創教育科目	工学概論	2	○	左記の科目から4単位以上	2									
	デザインと技術	2	○		2									
	北東北八戸の地域学	2				2								
	共創デザイン演習	2								2				
工学基礎科目	微分積分	2	○	左記の科目から14単位以上	2									
	線形代数	2	○			2								
	確率・統計	2						2						
	基礎物理学Ⅰ	2				2								
	基礎物理学Ⅱ	2					2							
	応用物理学概論	2							2					
	物理学実験	2				4								
	基礎化学Ⅰ	2				2								
	基礎化学Ⅱ	2					2							
	化学実験	2				4								
生命科学	2			2										
小 計			91		41	19	19	11	9	3	2	0		

[○]印は履修プログラムの必修科目

別表1

工学部 工学科 システム情報工学コース(システム情報工学プログラム) 履修表

令和4年度入学生より適用

区分	分野	授業科目	単位数	システム情報工学コース		年次および週時間数														
				システム情報工学プログラム	修了に必要な 修得単位数	1年		2年		3年		4年								
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期							
システム 情報 工学 専門 科目	専門基礎	情報科学アアカルト	2	○	左記の科目から70 単位以上	2														
		情報工学概論	2	○			2													
		基礎情報科学I	2	○		2														
		離散数学	2	○					2											
		オペレーションズリサーチ	2	○						2										
		オペレーティングシステム	2	○							2									
		データベース	2	○								2								
		プログラミング入門	2	○				2												
		プログラミング言語	2	○					2											
		データ構造とアルゴリズム	2	○						2										
		プログラム設計	2	○							2									
		コンピュータシステム	2	○								2								
		産業情報論	2									2								
	経営情報論	2										2								
	メディア情報	コンテンツ制作入門	2						2											
		コンピュータグラフィックス	2							2										
		ビジュアル情報処理	2								2									
		マルチメディア工学	2									2								
		デジタル信号処理	2										2							
		ウェブデザイン	2											2						
	ネットワーク・ セキュリティ	情報通信工学	2	○						2										
		情報ネットワーク入門	2								2									
		情報セキュリティ入門	2									2								
		情報ネットワーク構築	2										2							
		情報セキュリティ	2											2						
	専門応用	情報文化論	2									2								
		電気工学	2									2								
		電子工学	2											2						
		知識工学	2												2					
		ロボット工学	2													2				
シミュレーション工学		2													2					
数値解析		2														2				
集積回路		2															2			
実験・研修・ 研究等	情報工学基礎実験 I	1	○							4										
	情報工学基礎実験 II	1	○								4									
	情報工学応用実験 I	1	○									4								
	情報工学応用実験 II	1	○										4							
	情報専門ゼミナール	2												4						
	情報工学特別講義	2													2					
	設計・製図	2														4				
	学外研修 卒業研究I	1 6	 ○															9 9		
工学 発展 科目	ロボット工学	ロボット工学概論	2								2									
		ロボット工学実習	1										2							
		計測工学	2											2						
		論理回路	2	○										2						
		制御工学	2												2					
	原子力工学	原子力エネルギー	2									2								
		放射線の利用 原子力体感研修 原子燃料サイクル・安全工学	2 2 2										2						2	
小計			100			6	10	22	22	22	26	9	11							
総計			191			47	29	41	33	31	29	11	11							

[○]印は履修プログラムの必修科目

別表1

工学部 工学科 生命環境科学コース(生命環境科学プログラム) 履修表

令和4年度入学生より適用

区分	分野	授業科目	単位数	生命環境科学コース		年次および週時間数								
				生命環境科学プログラム	修了に必要な 修得単位数	1年		2年		3年		4年		
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
キャリア教育科目		キャリアデザインⅠ	1	○	左記の科目から5単位	1	1							
		キャリアデザインⅡ	1	○				1	1					
		キャリアデザインⅢ	1	○						1	1			
		職業倫理	2	○						2				
総合 教養 科目	人間科学	心理学	2		左記の科目 から6単位以上			2						
		哲学	2					2						
		文学	2					2						
		日本国憲法	2								2			
		歴史	2					2						
		経済学	2									2		
		知的財産論	2								2			
	国際コミュニケーション	日本語表現法	2		左記の科目 から8単位以上	2								
		実践日本語表現	2						2					
		異文化コミュニケーション	2										2	
		総合英語	2				2							
		実践英語	2				2							
		教養英語	2				2							
		英語会話	2				2							
		英語表現	2				2							
		Global English	2							2				
		English Communication	2							2				
	英語科目から4単位以上	English Reading	2						2					
		Technical English	2						2					
		中国語Ⅰ	2			2								
中国語Ⅱ	中国語Ⅱ	2				2								
	中国語Ⅲ	2					2							
	中国語Ⅲ	2						2						
体育科学	体育学	1			2									
	生涯スポーツ演習	1				2								
	スポーツ健康学	1					2							
総合学際	主題別ゼミナールⅠ	1				2								
	主題別ゼミナールⅡ	1						2						
	海外研修	1				2								
AI・データサイエンス科目	AI・データサイエンス入門	2	○	左記の科目から2単位以上	2									
	データアナリティクスⅠ	2						2						
	データアナリティクスⅡ	2							2					
共創教育科目	工学概論	2	○	左記の科目から4単位以上	2									
	デザインと技術	2	○		2									
	北東北八戸の地域学	2				2								
	共創デザイン演習	2							2					
工学基礎科目	微分積分	2	○	左記の科目から14単位以上	2									
	線形代数	2				2								
	確率・統計	2						2						
	基礎物理学Ⅰ	2				2								
	基礎物理学Ⅱ	2					2							
	応用物理学概論	2							2					
	物理学実験	2				4								
	基礎化学Ⅰ	2	○			2								
	基礎化学Ⅱ	2	○				2							
	化学実験	2	○			4								
生命科学	2	○		2										
小計			91		41	19	19	11	9	3	2	0		

[○]印は履修プログラムの必修科目

別表1

工学部 工学科 建築・土木工学コース(建築学プログラム、土木工学プログラム) 履修表

令和4年度入学生より適用

区分	分野	授業科目	単位数	建築・土木工学コース			年次および週時間数									
				建築学 プログラム	土木工学 プログラム	修了に必要な 修得単位数	1年		2年		3年		4年			
							前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
キャリア教育科目		キャリアデザインⅠ	1	○	○	左記の科目から5単位	1	1								
		キャリアデザインⅡ	1	○	○				1	1						
		キャリアデザインⅢ	1	○	○						1	1				
		職業倫理	2	○	○						2	2				
総合 教養 科目	人間科学	心理学	2			左記の科目 から6単位以上			2							
		哲学	2							2						
		文学	2							2						
		日本国憲法	2									2				
		歴史	2											2		
		経済学	2					2	2							
		知的財産論	2									2				
	国際コミュニケーション	日本語表現法	2			左記の科目 から8単位以上	2									
		実践日本語表現	2							2						
		異文化コミュニケーション	2												2	
		総合英語	2					2								
		実践英語	2					2								
		教養英語	2					2								
		英語会話	2					2								
		英語表現	2					2								
		Global English	2								2					
		English Communication	2								2					
	英語科目から4単位以上	English Reading	2							2						
		Technical English	2							2						
		中国語Ⅰ	2				2									
中国語Ⅱ	中国語Ⅱ	2					2									
	中国語Ⅲ	2						2								
	中国語Ⅲ	2						2								
体育科学	体育学	1			左記の科目 から18単位以上	2										
	生涯スポーツ演習	1						2								
	スポーツ健康学	1							2							
総合学際	主題別ゼミナールⅠ	1					2									
	主題別ゼミナールⅡ	1					2			2						
	海外研修	1					2									
AI・データサイエンス科目	AI・データサイエンス入門	2	○	○	左記の科目から2単位以上	2										
	データアナリティクスⅠ	2								2						
	データアナリティクスⅡ	2									2					
共創教育科目	工学概論	2	○	○	左記の科目から4単位以上	2										
	デザインと技術	2	○	○												
	北東北八戸の地域学	2						2								
	共創デザイン演習	2									2					
工学基礎科目	微分積分	2	○	○	左記の科目から14単位以上	2										
	線形代数	2	○	○				2								
	確率・統計	2							2							
	基礎物理学Ⅰ	2					2									
	基礎物理学Ⅱ	2						2								
	応用物理学概論	2								2						
	物理学実験	2					4									
	基礎化学Ⅰ	2					2									
	基礎化学Ⅱ	2						2								
	化学実験	2					4									
	生命科学	2					2									
小計		91				41	19	19	11	9	3	2	0			

[○]印は履修プログラムの必修科目

区分	分野	授業科目	単位数	建築・土木工学コース			年次および週時間数												
				建築学 プログラム	土木工学 プログラム	修了に必要な 修得単位数	1年		2年		3年		4年						
							前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期					
建築・ 土木 工学 専門 科目	専門基礎	基礎情報科学D	2	○			2												
		土木工学概論	2	○			2												
		建築概論	2	○				2											
		基礎製図	2	○				4											
		CAD基礎演習	2	○					4										
		地球環境論	2	○					2										
		測量学	2	○						2									
		測量実習	1	○							3								
		都市計画	2	○									2						
		構造力学Ⅰ	2	○								2							
		構造力学Ⅱ	2	○									2						
		地盤工学Ⅰ	2	○									2						
		建設応用数学	2											2					
		デッサン	2						2										
色彩学	2																		
建築学		建築設計Ⅰ	3	○							6								
		建築設計Ⅱ	3	○								6							
		建築設計Ⅲ	3	○									6						
		建築設計Ⅳ	3		—											6			
		建築構造設計	2													2			
		住居計画	2	○							2								
		建築計画	2	○								2							
		地域施設計画	2	○									2						
		建築史	2	○						2									
		近代建築史	2	○							2								
		建築環境工学Ⅰ	2	○								2							
		建築環境工学Ⅱ	2	○									2						
		建築設備	2	○										2					
		鉄筋コンクリート構造	2	○									2						
		建築基礎	2	○										2					
		鋼構造	2	○											2				
		木質構造	2	○												2			
		建築材料学	2	○								2							
		建築施工	2	○										2					
		建築生産	2	○												2			
		建築材料実験	2	○										4					
		建築法規	2	○											2				
		雪国建築	2	○											2				
インテリアデザイン	2									2									
ユニバーサルデザイン	2													2					
土木工学		材料の力学	2			○					2								
		上下水道工学	2			○							2						
		水処理工学	2			○								2					
		水理学Ⅰ	2			○						2							
		水理学Ⅱ	2			○							2						
		河川工学	2											2					
		海岸・港湾工学	2											2					
		道路・交通工学	2											2					
		地盤工学Ⅱ	2												2				
		コンクリート工学	2			○							2						
		コンクリート構造学	2			○								2					
		土木工学実験Ⅰ	2	—		○								6					
		土木工学実験Ⅱ	2	—		○									6				
		水工学設計・演習	2	—		○									4				
		地盤工学設計演習	2	—		○										4			
		橋工学設計・演習	2	—		○										4			
		応用測量学及び実習	2			○										3			
		火薬学	2			○										2			
		維持管理工学	2			○										2			
施工技術	2			○										2					
専門応用		インターンシップD	1												2				
		学外研修D	1												2				
		総合デザインⅠ	2	○		○									4				
		総合デザインⅡ	2	○		○									4				
		数値解析	2											2					
		卒業研究D	6	○		○										9	9		
工学 発展 科目	海洋学 (海洋土木)	海洋学の基礎と未来	2							2									
		海洋土木Ⅰ	2	—							2								
		海洋土木Ⅱ	2	—								2							
小計			143						6	16	25	34	44	43	19	9			
総計			234						47	35	44	45	53	46	21	9			

[○]印は履修プログラムの必修科目

[—]印は原則として履修プログラムによって修得できない科目

別表2

感性デザイン学部 感性デザイン学科 履修表

令和4年度入学生より適用

区分	分野	授業科目	単位数	卒業に必要な 修得単位数		年次および週時間数										
						1年		2年		3年		4年				
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
キャリア教育科目		キャリアデザインⅠ	1	○	左記の科目から5単位	1	1									
		キャリアデザインⅡ	1	○				1	1							
		キャリアデザインⅢ	1	○						1	1					
		職業倫理	2	○						2						
総合 教養 科目	人間科学	心理学	2		左記の科目 から8単位以上 英語科目から4単位以上	左記の科目 から22単位 以上			2							
		哲学	2						2							
		文学	2						2							
		日本国憲法	2									2				
		歴史	2													
		経済学	2						2							
		知的財産論	2								2					
	国際コミュニケーション	日本語表現法	2													
		実践日本語表現	2								2					
		異文化コミュニケーション	2												2	
		総合英語	2													
		実践英語	2													
		教養英語	2													
		英語会話	2													
		英語表現	2													
		Global English	2									2				
		English Communication	2									2				
	English Reading	2									2					
	Technical English	2									2					
	中国語Ⅰ	中国語Ⅰ	2													
		中国語Ⅱ	2									2				
		中国語Ⅲ	2									2				
	体育科学	体育学	1													
生涯スポーツ演習		1							2							
スポーツ健康学		1							2							
総合学際	主題別ゼミナールⅠ	1														
	主題別ゼミナールⅡ	1								2						
	海外研修	1								2						
AI・データサイエンス科目	AI・データサイエンス入門	2	○	左記の科目から2単位以上	2											
	データアナリティクスⅠ	2							2							
	データアナリティクスⅡ	2								2						
共創教育科目	デザインと技術	2	○	左記の科目から2単位以上	2											
	北東北八戸の地域学	2														
	共創デザイン演習	2					2				2					
小計			67				23	13	17	9	9	3	2	0		

[○]印は感性デザイン学科の必修科目

別表2

感性デザイン学部 感性デザイン学科 履修表

令和4年度入学生より適用

区分	分野	授業科目	単位数	卒業に必要な 修得単位数	年次および週時間数															
					1年		2年		3年		4年									
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期								
感性 デザ イン 専門 科目	デザイン基礎	感性デザイン学概論	1	○		2														
		デザイン思考	1	○		2														
		図学	2	○		2														
		美術史	2	○		2														
		デザイン史	2	○		2														
		ユニバーサルデザイン	2	○		2														
		フィールドワーク基礎	1																	
		製図	2																	
		デッサン	2																	
		色彩学	2																	
		表現技法	2																	
		写真技術実習	1																	
		映像制作実習	1																	
		工芸実習	2																	
	製造工作実習	1																		
	情報技術	コンピュータ基礎演習	2	○			2													
		アカデミックライティング	2	○																
		プレゼンテーション	2	○																
		CAD演習Ⅰ	2																	
CAD演習Ⅱ		2																		
情報メディア論		2																		
感性 デザ イン 応用	デザイン応用	ビジュアルデザイン論	2																	
		タイポグラフィ	2																	
		イラストレーションⅠ	2																	
		イラストレーションⅡ	2																	
		Webデザイン	2																	
		広告デザイン	2																	
		絵画Ⅰ	2																	
		絵画Ⅱ	2																	
		彫刻	2																	
		工芸学	2																	
		プロトタイピング	2																	
		プロダクトデザイン	2																	
		インテリアデザイン	2																	
		音と光デザイン	2																	
		住環境デザイン	2																	
		地域文化論	2																	
		地域コミュニティ論	2																	
		ビジュアルデザイン演習	2																	
	共生社会デザイン	2																		
	メディア表現論	2																		
	芸術批評	2																		
	デザイン実践	企画構想演習	2																	
		アートプロジェクト	2																	
		インターメディア造形演習Ⅰ	2																	
		インターメディア造形演習Ⅱ	2																	
		フィールドワーク演習	1																	
		地域デザインプロジェクト	1																	
		総合演習	感性デザイン総合演習Ⅰ	2																
	感性デザイン総合演習Ⅱ		2																	
感性デザイン総合演習Ⅲ	2																			
感性デザイン応用演習	2		○																	
感性デザイン特別演習	1																			
インターンシップ	1																			
卒業研究	6		○																	
小計			104			16	22	26	24	24	18	13	9							
総計			171			39	35	43	33	33	21	15	9							

[○]印は感性デザイン学科の必修科目

別表3

原子力工学プログラム 履修表

令和4年度入学生より適用

授業科目	単位数	工学科			摘要
		機械工学コース	電気電子通信工学コース	システム情報工学コース	
原子力エネルギー	2	○	○	○	左記の科目から8単位を修得すること
放射線の利用	2	○	○	○	
原子力体感研修	2	○	○	○	
原子燃料サイクル・安全工学	2	○	○	○	

[○]印は原子力工学プログラムの必修科目

注1:原子力工学プログラムの修了要件は各所属コースの卒業要件と本履修表を満たすこと。

注2:上表に定めるコース以外に所属する学生が要件を満たした場合でもプログラム修了は認めない。

別表3

ロボット工学プログラム 履修表

令和4年度入学生より適用

授業科目	開講コース	単位数	工学科			摘要
			機械工学コース	電気電子通信工学コース	システム情報工学コース	
ロボット工学概論	共通	2	○	○	○	左記の科目から必修科目を含めて7単位以上を修得すること
ロボット工学実習		1	○	○	○	
計測工学		2	△	△	△	
論理回路		2	△	△	△	
制御工学		2	△	△	△	
メカトロニクス基礎	機械工学コース	2		△	△	
基礎設計工学		2		△	△	
応用設計工学		2		△	△	
センサー応用工学	電気電子通信工学コース	2	△		△	
情報メディア工学		2	△		△	
知識工学	システム情報工学コース	2	△	△		
ロボット工学		2	△	△		
デジタル信号処理		2	△	△		
プログラム設計		2	△	△		

[○]印はロボット工学プログラムの必修科目

[△]印はロボット工学プログラムの選択科目

注1:ロボット工学プログラムの修了要件は各所属コースの卒業要件と本履修表を満たすこと。

注2:上表に定めるコース以外に所属する学生が要件を満たした場合でもプログラム修了は認めない。

別表3

海洋学プログラム 履修表

令和4年度入学生より適用

授業科目	単位数	工学科		摘要
		海洋学(海洋生態)	海洋学(海洋土木)	
		生命環境科学コース	建築・土木工学コース (土木工学プログラム)	
海洋学の基礎と未来	2	○	○	左記の科目から 海洋学(海洋生態)は8単位以上、 海洋学(海洋土木)は7単位以上 を修得すること
リモートセンシング概論	1	△	△	
海洋生物学	2	○		
臨海実習	2	○		
海洋生態学	2	○		
海洋土木Ⅰ	2		○	
海洋土木Ⅱ	2		○	
インターンシップD	1		△	

[○]印は海洋学プログラムの必修科目

[△]印は海洋学プログラムの選択科目

注1:海洋学プログラムの修了要件は各所属コースの卒業要件と本履修表を満たすこと。

注2:上表に定めるコース以外に所属する学生が要件を満たした場合でもプログラム修了は認めない。

別表3

特別養成プログラム 履修科目

工学部 工学科:スーパーエンジニア養成プログラム

感性デザイン学部 感性デザイン学科:地域活性化リーダー養成プログラム

令和4年度入学生より適用

授業科目	単位数	工学科					感性デザイン学科
		機械工学コース	電気電子通信工学コース	システム情報工学コース	生命環境科学コース	建築・土木工学コース	
総合英語	2						
実践英語	2						
教養英語	2						
英語会話	2	左記の科目から8単位以上を修得すること	左記の科目から8単位以上を修得すること	左記の科目から8単位以上を修得すること	左記の科目から8単位以上を修得すること	左記の科目から8単位以上を修得すること	左記の科目から8単位以上を修得すること
英語表現	2						
Global English	2						
English Communication	2						
English Reading	2						
Technical English	2						
北東北八戸の地域学	2	○	○	○	○	○	○
共創デザイン演習	2	○	○	○	○	○	○
解析 I	2	○	○	○	○	○	
解析 II	2	○	○	○	○	○	
特別専攻プロジェクト I	2	○	○	○	○	○	○
特別専攻プロジェクト II	2	○	○	○	○	○	○
特別専攻ゼミナール I	2	○	○	○	○	○	○
特別専攻ゼミナール II	2	○	○	○	○	○	○
学外研修M	1	○					
卒業研究M	6	○					
インターンシップE	1		○				
卒業研究E	6		○				
学外研修I	1			○			
卒業研究I	6			○			
インターンシップL	1				○		
卒業研究L	6				○		
インターンシップD	1					○	
卒業研究D	6					○	
地域デザインプロジェクト	1						○
共生社会デザイン	2						○
インターンシップ	1						○
卒業研究	6						○

[○]印は特別養成プログラムの必修科目

別表4

追 試 験	1 科目につき	500円
再 試 験	1 科目につき	1,500円
受験票 (学生証不携帯)	当日限り	300円

別表5 進級要件

学部学科	コース	学年	修得単位数	必修単位数	その他の要件	
工学部 工学科	機械工学コース	1学年	25	—		
		2学年	60	—		
		3学年	100	—		
	電気電子通信工学コース	1学年	25	—		
		2学年	60	26		
		3学年	100	44		・「電気電子通信工学入門」を修得のこと ・「物理学実験」と「化学実験」のいずれかを修得のこと ・「創造工学実験」と「電気電子通信基礎実験」を修得のこと
	システム情報工学コース	1学年	25	—		
		2学年	60	—		
		3学年	100	—		
	生命環境科学コース	1学年	25	—		
		2学年	60	—		
		3学年	100	—		・「生命環境科学基礎実験」、「生命環境科学実験 I・II」を修得のこと
建築・土木工学コース	1学年	25	—			
	2学年	60	20			
	3学年	100	30			
感性デザイン学部 感性デザイン学科	—	1学年	18	8		
		2学年	48	10		
		3学年	90	18		

単 位 認 定 伝 票(案)

令和〇〇年度 〇〇〇〇〇〇学科 第〇学年 に入学した学生 「学籍番号 学生氏名〇〇〇〇」 の既修得単位認定について協議の結果、下記のとおり認定したいのでお知らせ致します。

〇〇学科長 学科長氏名〇〇〇〇 印

認定科目及単位			認定科目担当者			認定科目及単位			認定科目担当者			
科目名	単位数		氏 名			科目名	単位数		氏 名			
	必修	選択					必修	選択				
キャリア教育科目						工業基礎科目						
総合教養科目						専門科目						
AI・データサイエンス科目												
共創教育科目												

認 定 単 位 数

キャリア教育		総合教養		AI・データ		共創教育		工学基礎		専門		特別専攻		他学部		総計	
必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択

様式第5号（教育実習実施計画に関する書類）

教 育 実 習 等 実 施 計 画	
1	教育実習等の内容及び成績評価等
①	<p>教育実習等の時期</p> <p>5月～7月（ただし、一部9月以降に行われる場合がある）</p>
②	<p>教育実習等の実習期間・総時間数</p> <p>高等学校2週間（80時間）</p>
②	<p>実習校の確保の方法</p> <p>本学教育実習生の受け入れについては、高等学校54校（829学級）から承諾を得ており、本学の入学定員300名に対する必要な学級数を超えている。</p> <p>なお、教育実習を行う前年度には、実習校に対してあらためて実習生の受け入れ依頼を行い、承諾を得ている。</p>
④	<p>実習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育実習は4年次に、「事前指導」を受講した後に行われる。 ・ 実習は実習校の方針に従って実施されるが、実習生には、実習期間中、現職教諭の授業を可能な限り参観するように指導している。 ・ 教壇（授業）実習については、可能な限り細案を含む「学習指導案」を必ず作成するように指導している。 ・ 教育実習生には、実施状況を大学側に定期的に通知することを課している。 ・ 実習後半に行われる研究授業に対しては、本学教員が巡回訪問して参観し、授業終了後には、実習生に教授法などに関して指導や助言を与えている。
⑤	<p>実習生に対する指導の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事前指導ではまず、実習上の「心得」、教授・学習過程、生徒指導（生徒理解）および「学習指導案」の書き方などについて概説し、留意点を確認させている。これは、前年度末の2月から3月にかけて前倒しで実施している。 ・ 教育実習生が大人数になるような場合は、複数クラスに分かれ、クラスごとの「模擬授業」を通して教授法の基礎を体得するように指導している。また、学生が模擬授業を担当するにあたっては、時間割に配当された事前指導の時間外で、学生は個別の指導を複数回受け、学習指導案と板書計画、ワークシートの作り方などを学ぶことになる。 ・ 実習中には、研究授業が行われる時間帯に、本学教員が巡回訪問して授業などを参観する。授業後には、教授法に関して改善すべき点などを指摘している。 ・ 教育実習終了後は、事後指導として本学教員による実習総括を行い、実習生の教育実習報告を通して

教授法などの改善に資するように指導する。

- ・ 以上をふまえて、事前・事後指導の総仕上げとして、学生には実習生活の自己総括のレポートをまとめることを課している（このレポートは、事後指導の期間中にも作成を進めさせ、各学生の実習報告の基となる）。
- ・

⑥ 実習の成績評価（評価の基準及び方法）

※ 評価項目表、評価シート等がある場合は、本計画書に添付すること。

「教育実習成績報告書」に実習校側が記載した成績評価に準じて行う。具体的な評価区分は「学習指導」、「生徒指導及び特別活動等」、「実習態度」の3つであり、それぞれ次のように評価される。（本学独自の「教育実習成績報告書」（一部分）添付参照）

- ・ 「学習指導」については、基礎学力、表現力、教材研究、学習指導案、指導態度・技術という5つの下位項目それぞれについて評価される。
- ・ 「生徒指導及び特別活動等」については、生徒理解、特別活動等の指導、学級（ホームルーム）経営という3つの下位項目それぞれについて評価される。
- ・ 「実習態度」については、勤務態度、事務処理という2つの下位項目それぞれについて評価される。
- ・ 上記の下位項目の評価は5段階で、特に優れている場合は“S”、優れている場合は“A”、普通である場合は“B”、やや劣る場合は“C”、特に劣る場合は“D”と評価される。
- ・ これらの各項目の評価をもとに、総合的な所見として「総合評価」が上記と同様に5段階（S・A・B・C・D）で評価される。特に“D”の総合評価は教員として「不適格」と判定される場合になされる。

2 事前及び事後の指導の内容等

① 時期及び時間数

前年度の2～3月から7月下旬の15回、30時間実施される（9月以降の実習があった場合は、適宜対応する）。この内、事前指導が全12回、24時間、すべて現場実習の前に行われる。事後指導は3回6時間、実習後に行われる。

② 内容（具体的な指導項目）

- ・ 「事前指導」の全体指導は、新年度に教育実習に臨むことになる3年生を対象にして、前年度末の2～3月にかけて5回にわたって実施している。この前倒しの事前指導では、実習上の心得、生徒指導（生徒理解）、教授・学習過程、「学習指導案」の書き方などについて、その具体的な方法と留意点を説明する。
- ・ 4月以降の事前指導は、学生の「模擬授業」が中心となる。模擬授業は実習生全員が教壇に立って、45～50分間行う。授業終了後、複数の専任教員と学生が当該実習生の授業の出来・不出来、事前に提出された学習指導案の是非・成否を、毎回評価している。実習に臨む学生が大人数になるような場合は、複数クラス編成で実施している。これにより、学生全員に問題点を確認させるとともに、優秀な授業例や指導案については、紹介して情報を共有させている。
- ・ また、現場の教員に依頼して、教育実習に関する「心得」などに関する講演会を開催している。
- ・ 学生が模擬授業を担当するにあたって、担当教員は、必要に応じて時間割に配当された事前指導の時間外で、複数回の指導時間を確保し、教材分析や「学習指導案」の書き方、授業の進め方などにつ

いて、全体指導の内容を踏まえて、具体的に個別指導を行っている。

- ・ 「事後指導」では、クラス分けをせずに、担当教員による実習の講評と実習生の体験報告会が行われる。また、前述したように、受講生各自に実習の反省点などを含めて、総括的なレポートを提出させている。
- ・ 事後指導は、教育実習を終えた学生の教育実習報告が中心となる。すべての履修学生が、教育実習の総括レポートをもとに、実習関係資料を準備し、8～10分程度で発表を行う。発表にあたっては、教員は事前にレポートのチェックをおこない、指導している。

3 教育実習に関して連絡調整等を行う委員会・協議会等（以下「委員会等」という。）

① 大学内の各学部・学科等との連絡調整を行う委員会等

- ・ 委員会等の名称

「教職課程に関する連絡会議」

- 構成員(役職・人数)は、以下のとおりである。

学務部長（議長）（1名）

基礎教育研究センター長（1名）

学務部次長（3名）

教職に関する科目担当教員（専任（教職教室）：3名）

学務部課長（1名）

- 運営方法

3回程度/年、必要に応じて開催している。議長が開催の日時・場所および議題をあらかじめ構成員に通知し開催している。主な議事は、教育実習および介護等体験の運営と実施報告、教職科目の担当者・時間割、履修カルテ等、である。

「八戸工業大学教職課程委員会」

- 構成員(役職・人数)は、以下のとおりである。

学務部長(委員長:1名)

基礎教育センター長(1名)

学務部次長(3名)

教職に関する科目担当教員（専任（教職教室）：3名）

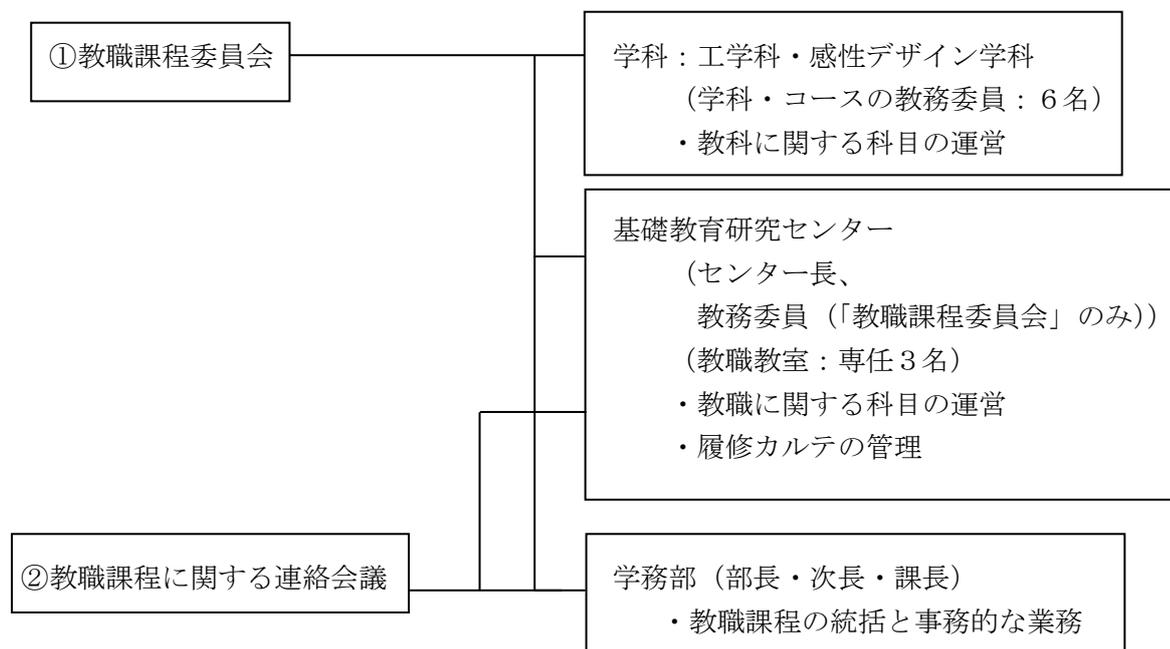
教科に関する科目担当教員（各部局の教務委員7名）

学務部課長(1名)

- 運営方法

3回程度/年、必要に応じて開催している。委員長が開催の日時・場所および議題をあらかじめ構成員に通知し開催している。主な議事は、教職課程の編成および変更、教職課程および授業の検証・改善、教員免許状更新講習、教職課程に関する全学的な調整等、である。

【委員会の組織図】



③大学外の関係機関（例：都道府県及び市区町村教育委員会など）との連絡調整等を行う委員会等（※学校体験活動を含む場合は、大学と学校との連携体制についても記載すること。）

- ・比較的小規模な大学であることもあり、特別な委員会は設置していない。学務部教務課と基礎教育研究センター教職教室が連携し、必要に応じて、教育委員会や実習校との連絡調整を行っており、特段の問題は生じていない。

4 教育実習の受講資格

教育実習を受講するためには、次の条件を満たしている必要がある（「八戸工業大学教職課程の履修等に関する規程」）。ただし、特別の事情があり、かつ、教育実習を受講するのに支障がない場合は、前記の全ての条件を満たしていない場合でも受講を認めることがある。また、教職課程の学修過程などをもとに、受講するのに相応しくないと判断されたときは、制限することがある。

- ・当該年度に卒業の見込みがあること。
- ・3学年までに開講されている、取得を希望する免許に関わる教職科目の単位をすべて修得していること
- ・3学年までに開講されている、キャリアデザイン科目の単位をすべて修得していること
- ・「日本国憲法」2単位を修得していること
- ・3学年までに開講されている、必修の実験・実習・製図の全科目、体育科学分野から2単位、および「基礎情報科学」（工学部）2単位を修得していること
- ・健康診断受診と麻疹抗体検査に係る要件を満たしていること

5 実習校

※ 実習校のリストは次頁以降に記載し、実習生受入承諾書は別添とします。

様式第5号（教育実習実施計画に関する書類）

5 実習校					
教育実習	体験活動	学級数の合計		高等学校 829 学級	
○	×	学校名	青森県立青森高等学校 (青森県青森市桜川8丁目1-2)	学級数： 21	生徒数： 838人
		教員数	61人（内訳）教諭 53人、助教諭 人、講師 6人、 養護教諭 2人、養護助教諭 人、栄養教諭 人		
○	×	学校名	青森県立青森西高等学校 (青森県青森市新城平岡266-20)	学級数： 18	生徒数： 718人
		教員数	51人（内訳）教諭 46人、助教諭 人、講師 4人、 養護教諭 1人、養護助教諭 人、栄養教諭 人		
○	×	学校名	青森県立青森東高等学校 (青森県青森市原別3丁目1-1)	学級数： 19	生徒数： 756人
		教員数	59人（内訳）教諭 53人、助教諭 人、講師 4人、 養護教諭 2人、養護助教諭 人、栄養教諭 人		
○	×	学校名	青森県立青森北高等学校 (青森県青森市羽白富田80-7)	学級数： 16	生徒数： 628人
		教員数	52人（内訳）教諭 44人、助教諭 人、講師 7人、 養護教諭 1人、養護助教諭 人、栄養教諭 人		
○	×	学校名	青森県立青森南高等学校 (青森県青森市西大野2丁目12-40)	学級数： 18	生徒数： 718人
		教員数	54人（内訳）教諭 47人、助教諭 人、講師 6人、 養護教諭 1人、養護助教諭 人、栄養教諭 人		
○	×	学校名	青森県立青森中央高等学校 (青森県青森市東大野1丁目22-1)	学級数： 15	生徒数： 590人
		教員数	50人（内訳）教諭 43人、助教諭 人、講師 6人、 養護教諭 1人、養護助教諭 人、栄養教諭 人		
○	×	学校名	青森県立浪岡高等学校 (青森県青森市浪岡浪岡稲村101-2)	学級数： 5	生徒数： 122人
		教員数	21人（内訳）教諭 16人、助教諭 人、講師 4人、 養護教諭 1人、養護助教諭 人、栄養教諭 人		
○	×	学校名	青森県立青森工業高等学校 (青森県青森市馬屋尻清水流204-1)	学級数： 21	生徒数： 721人
		教員数	78人（内訳）教諭 57人、助教諭 人、講師 20人、 養護教諭 1人、養護助教諭 人、栄養教諭 人		
○	×	学校名	青森県立青森商業高等学校 (青森県青森市戸山安原7-1)	学級数： 16	生徒数： 623人
		教員数	55人（内訳）教諭 42人、助教諭 人、講師 12人、 養護教諭 1人、養護助教諭 人、栄養教諭 人		

○	×	学校名	青森県立五所川原高等学校 (青森県五所川原市中平井町 3-3)	学級数 :	生徒数 :
		教員数	46人 (内訳) 教諭 40人、助教諭 人、講師 5人、 養護教諭 1人、養護助教諭 人、栄養教諭 人	15	582人
○	×	学校名	青森県立木造高等学校 (青森県つがる市木造日向 73-2)	学級数 :	生徒数 :
		教員数	50人 (内訳) 教諭 42人、助教諭 人、講師 7人、 養護教諭 1人、養護助教諭 人、栄養教諭 人	12	457人
○	×	学校名	青森県立鱒ヶ沢高等学校 (青森県西津軽郡鱒ヶ沢町舞戸町小夜 72)	学級数 :	生徒数 :
		教員数	21人 (内訳) 教諭 12人、助教諭 人、講師 7人、 養護教諭 1人、養護助教諭 1人、栄養教諭 人	3	51人
○	×	学校名	青森県立五所川原農林高等学校 (青森県五所川原市一野坪朝日田 12-37)	学級数 :	生徒数 :
		教員数	61人 (内訳) 教諭 35人、助教諭 人、講師 25人、 養護教諭 1人、養護助教諭 人、栄養教諭 人	12	412人
○	×	学校名	青森県立五所川原工業高等学校 (青森県五所川原市湊船越 192)	学級数 :	生徒数 :
		教員数	52人 (内訳) 教諭 42人、助教諭 人、講師 9人、 養護教諭 1人、養護助教諭 人、栄養教諭 人	12	397人
○	×	学校名	青森県立弘前高等学校 (青森県弘前市新寺町 1-1)	学級数 :	生徒数 :
		教員数	55人 (内訳) 教諭 48人、助教諭 人、講師 5人、 養護教諭 2人、養護助教諭 人、栄養教諭 人	18	712人
○	×	学校名	青森県立弘前中央高等学校 (青森県弘前市蔵主町 7-1)	学級数 :	生徒数 :
		教員数	49人 (内訳) 教諭 45人、助教諭 人、講師 3人、 養護教諭 1人、養護助教諭 人、栄養教諭 人	18	713人
○	×	学校名	青森県立弘前南高等学校 (青森県弘前市大開 4丁目 1-1)	学級数 :	生徒数 :
		教員数	59人 (内訳) 教諭 49人、助教諭 1人、講師 8人、 養護教諭 1人、養護助教諭 人、栄養教諭 人	18	704人
○	×	学校名	青森県立黒石高等学校 (青森県黒石市西ヶ丘 65)	学級数 :	生徒数 :
		教員数	50人 (内訳) 教諭 48人、助教諭 人、講師 1人、 養護教諭 1人、養護助教諭 人、栄養教諭 人	13	510人
○	×	学校名	青森県立尾上総合高等学校 (青森県平川市高木松元 7-6)	学級数 :	生徒数 :
		教員数	38人 (内訳) 教諭 29人、助教諭 人、講師 7人、 養護教諭 2人、養護助教諭 人、栄養教諭 人	12	191人

○	×	学校名	青森県立柏木農業高等学校 (青森県平川市荒田上駒田 130)	学級数 :	生徒数 :
		教員数	38人 (内訳) 教諭 30人、助教諭 人、講師 7人、 養護教諭 1人、養護助教諭 人、栄養教諭 人	12	366人
○	×	学校名	青森県立弘前工業高等学校 (青森県弘前市馬屋町 6-2)	学級数 :	生徒数 :
		教員数	64人 (内訳) 教諭 54人、助教諭 人、講師 9人、 養護教諭 1人、養護助教諭 人、栄養教諭 人	19	664人
○	×	学校名	青森県立弘前実業高等学校 (青森県弘前市中野 3丁目 6-10)	学級数 :	生徒数 :
		教員数	58人 (内訳) 教諭 56人、助教諭 人、講師 人、 養護教諭 2人、養護助教諭 人、栄養教諭 人	21	836人
○	×	学校名	青森県立三本木高等学校 (青森県十和田市西五番町 7-1)	学級数 :	生徒数 :
		教員数	47人 (内訳) 教諭 46人、助教諭 人、講師 人、 養護教諭 1人、養護助教諭 人、栄養教諭 人	24	700人
○	×	学校名	青森県立野辺地高等学校 (青森県上北郡野辺地町松ノ木 106-1)	学級数 :	生徒数 :
		教員数	27人 (内訳) 教諭 21人、助教諭 人、講師 5人、 養護教諭 1人、養護助教諭 人、栄養教諭 人	6	201人
○	×	学校名	青森県立七戸高等学校 (青森県上北郡七戸町館野 47-31)	学級数 :	生徒数 :
		教員数	42人 (内訳) 教諭 33人、助教諭 人、講師 8人、 養護教諭 1人、養護助教諭 人、栄養教諭 人	10	331人
○	×	学校名	青森県立百石高等学校 (青森県上北郡おいらせ町苗平谷地 46)	学級数 :	生徒数 :
		教員数	35人 (内訳) 教諭 28人、助教諭 人、講師 6人、 養護教諭 1人、養護助教諭 人、栄養教諭 人	10	383人
○	×	学校名	青森県立十和田工業高等学校 (青森県十和田市三本木下平 215-1)	学級数 :	生徒数 :
		教員数	59人 (内訳) 教諭 49人、助教諭 人、講師 9人、 養護教諭 人、養護助教諭 1人、栄養教諭 人	14	472人
○	×	学校名	青森県立田名部高等学校 (青森県むつ市海老川町 6-18)	学級数 :	生徒数 :
		教員数	52人 (内訳) 教諭 41人、助教諭 人、講師 9人、 養護教諭 1人、養護助教諭 1人、栄養教諭 人	15	580人
○	×	学校名	青森県立大湊高等学校 (青森県むつ市大湊大近川 44-84)	学級数 :	生徒数 :
		教員数	52人 (内訳) 教諭 35人、助教諭 人、講師 15人、 養護教諭 1人、養護助教諭 1人、栄養教諭 人	14	494人

○	×	学校名	青森県立むつ工業高等学校 (青森県むつ市文京町 22-7)	学級数 :	11	生徒数 :	365 人
		教員数	40 人 (内訳) 教諭 31 人、助教諭 人、講師 8 人、 養護教諭 1 人、養護助教諭 人、栄養教諭 人				
○	×	学校名	青森県立八戸高等学校 (青森県八戸市長者 4 丁目 4-1)	学級数 :	18	生徒数 :	710 人
		教員数	53 人 (内訳) 教諭 45 人、助教諭 人、講師 6 人、 養護教諭 1 人、養護助教諭 1 人、栄養教諭 人				
○	×	学校名	青森県立八戸東高等学校 (青森県八戸市類家 1 丁目 4-47)	学級数 :	18	生徒数 :	686 人
		教員数	47 人 (内訳) 教諭 42 人、助教諭 人、講師 4 人、 養護教諭 1 人、養護助教諭 人、栄養教諭 人				
○	×	学校名	青森県立八戸北高等学校 (青森県八戸市大久保町道 8-3)	学級数 :	18	生徒数 :	709 人
		教員数	55 人 (内訳) 教諭 50 人、助教諭 人、講師 3 人、 養護教諭 1 人、養護助教諭 1 人、栄養教諭 人				
○	×	学校名	青森県立八戸西高等学校 (青森県八戸市尻内町中根市 14)	学級数 :	16	生徒数 :	639 人
		教員数	49 人 (内訳) 教諭 41 人、助教諭 人、講師 7 人、 養護教諭 1 人、養護助教諭 人、栄養教諭 人				
○	×	学校名	青森県立三戸高等学校 (青森県三戸郡三戸町川守田白坂ノ上 3-1)	学級数 :	6	生徒数 :	116 人
		教員数	19 人 (内訳) 教諭 16 人、助教諭 人、講師 3 人、 養護教諭 人、養護助教諭 人、栄養教諭 人				
○	×	学校名	青森県立名久井農業高等学校 (青森県三戸郡南部町下名久井下諏訪平 1)	学級数 :	8	生徒数 :	245 人
		教員数	33 人 (内訳) 教諭 24 人、助教諭 人、講師 8 人、 養護教諭 人、養護助教諭 1 人、栄養教諭 人				
○	×	学校名	青森県立八戸水産高等学校 (青森県八戸市白銀町人形沢 6-1)	学級数 :	13	生徒数 :	325 人
		教員数	29 人 (内訳) 教諭 28 人、助教諭 人、講師人、 養護教諭 1 人、養護助教諭 人、栄養教諭 人				
○	×	学校名	青森県立八戸工業高等学校 (青森県八戸市江陽 1 丁目 2-27)	学級数 :	21	生徒数 :	730 人
		教員数	80 人 (内訳) 教諭 60 人、助教諭 14 人、講師 5 人、 養護教諭 1 人、養護助教諭 人、栄養教諭 人				
○	×	学校名	青森県立八戸商業高等学校 (青森県八戸市十日市塚ノ下 3-1)	学級数 :	9	生徒数 :	348 人
		教員数	39 人 (内訳) 教諭 31 人、助教諭 3 人、講師 4 人、 養護教諭 1 人、養護助教諭 人、栄養教諭 人				

○	×	学校名	青森県立八戸中央高等学校 (青森県八戸市諏訪 1 丁目 2-17)	学級数 :	生徒数 :
		教員数	34 人 (内訳) 教諭 25 人、助教諭 人、講師 7 人、 養護教諭 2 人、養護助教諭 人、栄養教諭 人	12	223 人
○	×	学校名	東奥学園高等学校 (青森県青森市勝田 2 丁目 11-1)	学級数 :	生徒数 :
		教員数	49 人 (内訳) 教諭 35 人、助教諭 2 人、講師 11 人、 養護教諭 1 人、養護助教諭 人、栄養教諭 人	16	413 人
○	×	学校名	青森山田高等学校 (青森県青森市青葉 3 丁目 13-40)	学級数 :	生徒数 :
		教員数	95 人 (内訳) 教諭 69 人、助教諭 人、講師 23 人、 養護教諭 3 人、養護助教諭 人、栄養教諭 人	39	1177 人
○	×	学校名	青森明の星高等学校 (青森県青森市浪打 2 丁目 6-32)	学級数 :	生徒数 :
		教員数	60 人 (内訳) 教諭 43 人、助教諭 人、講師 16 人、 養護教諭 1 人、養護助教諭 人、栄養教諭 人	18	477 人
○	×	学校名	五所川原第一高等学校 (青森県五所川原市元町 42)	学級数 :	生徒数 :
		教員数	49 人 (内訳) 教諭 37 人、助教諭 人、講師 12 人、 養護教諭 人、養護助教諭 人、栄養教諭 人	16	449 人
○	×	学校名	五所川原商業高等学校 (青森県五所川原市唐笠柳藤巻 80)	学級数 :	生徒数 :
		教員数	28 人 (内訳) 教諭 21 人、助教諭 人、講師 7 人、 養護教諭 人、養護助教諭 人、栄養教諭 人	11	235 人
○	×	学校名	東奥義塾高等学校 (青森県弘前市石川長者森 61-1)	学級数 :	生徒数 :
		教員数	60 人 (内訳) 教諭 42 人、助教諭 人、講師 16 人、 養護教諭 2 人、養護助教諭 人、栄養教諭 人	21	718 人
○	×	学校名	弘前学院聖愛中学高等学校 (青森県弘前市原ヶ平山元 112-21)	学級数 :	生徒数 :
		教員数	57 人 (内訳) 教諭 45 人、助教諭 人、講師 11 人、 養護教諭 1 人、養護助教諭 人、栄養教諭 人	15	505 人
○	×	学校名	柴田学園高等学校 (青森県弘前市豊原 1 丁目 2-1)	学級数 :	生徒数 :
		教員数	39 人 (内訳) 教諭 27 人、助教諭 人、講師 11 人、 養護教諭 1 人、養護助教諭 人、栄養教諭 人	14	395 人
○	×	学校名	弘前東高等学校 (青森県弘前市川先 4 丁目 4-1)	学級数 :	生徒数 :
		教員数	57 人 (内訳) 教諭 38 人、助教諭 人、講師 18 人、 養護教諭 1 人、養護助教諭 人、栄養教諭 人	16	438 人

○	×	学校名	八戸学院野辺地西高等学校 (青森県上北郡野辺地町枇杷野 51-6)	学級数 :	9	生徒数 :	80 人
		教員数	29 人 (内訳) 教諭 20 人、助教諭 人、講師 8 人、 養護教諭 1 人、養護助教諭 人、栄養教諭 人				
○	×	学校名	八戸聖ウルスラ学院高等学校 (青森県八戸市田面木上野平 53-2)	学級数 :	21	生徒数 :	510 人
		教員数	71 人 (内訳) 教諭 43 人、助教諭 人、講師 27 人、 養護教諭 1 人、養護助教諭 人、栄養教諭 人				
○	×	学校名	向陵高等学校 (青森県八戸市田向 2 丁目 2-6)	学級数 :	6	生徒数 :	113 人
		教員数	22 人 (内訳) 教諭 10 人、助教諭 人、講師 11 人、 養護教諭 1 人、養護助教諭 人、栄養教諭 人				
○	×	学校名	八戸工業大学第一高等学校 (青森県八戸市白銀町右岩淵通 7-10)	学級数 :	28	生徒数 :	697 人
		教員数	61 人 (内訳) 教諭 52 人、助教諭 人、講師 8 人、 養護教諭 1 人、養護助教諭 人、栄養教諭 人				
○	×	学校名	八戸工業大学第二高等学校 (青森県八戸市妙大開 67)	学級数 :	22	生徒数 :	597 人
		教員数	53 人 (内訳) 教諭 46 人、助教諭 人、講師 6 人、 養護教諭 1 人、養護助教諭 人、栄養教諭 人				

学校法人八戸工業大学 定年規程

制定 昭和51年12月11日 理事会
改正 令和2年2月21日 理事会

(目的)

第1条 この規程は、学校法人八戸工業大学（以下「本法人」という。）就業規則第11条第3項の規定に基づき、教職員の定年に関する事項を定めることを目的とする。

(定年)

第2条 教職員は、定年に達した日の属する年度の末日をもって、退職する。
2 前項の定年は、60歳とする。ただし、大学の教育職員のうち、教授、准教授及び講師の定年は、65歳とする。

(再雇用)

第3条 本法人を定年退職した者の再雇用については、別に定める。

(その他)

第4条 この規程に定めのない事項及びこの規程の運用にあたって特別に必要な事項は、理事長が定める。

附 則

この規程は、昭和52年3月31日より施行する。

附 則

この規程は、平成7年4月1日より施行する。

附 則

この規程は、平成10年4月1日より施行する。

附 則

この規程は、平成15年4月1日より施行する。

附 則

この規程は、平成18年4月1日より施行する。

附 則

この規程は、平成19年4月1日より施行する。

附 則

この規程は、平成20年4月1日より施行する。

附 則

この規程は、平成21年4月1日より施行する。

附 則

この規程は、平成23年6月1日より施行する。

附 則

この規程は、令和2年4月1日より施行する。

学校法人八戸工業大学 定年退職者の再雇用に関する規程

制定 平成18年 2月21日 理事会

改正 令和 3年 3月 4日 理事会

(目 的)

第1条 この規程は、学校法人八戸工業大学（以下「法人」という。）定年規程第3条の規定に基づいて、定年退職者の再雇用制度に関し必要な事項を定めることを目的とする。

(定 義)

第2条 この規程において「再雇用」とは、法人を定年退職した教職員を引き続き雇用することをいう。

2 この規程において「再雇用教職員」とは、前項により雇用する再雇用教育職員、再雇用事務職員、再雇用技術職員、再雇用技能職員及び再雇用労務職員をいう。

(適用等)

第3条 再雇用は、法人を定年退職した後引き続いて法人に勤務を希望する教職員で、学校法人八戸工業大学就業規則（昭和48年4月1日制定。以下「就業規則」という。）第11条第1項第二号、第五号、第12条又は第47条及び第48条第四号、第五号に規定する事由に該当しない者について行う。ただし、65歳に達した日の属する年度の末日を超えて雇用することはできない。

2 定年規程第2条第2項ただし書きに定める大学の教育職員の定年退職者については、理事長は、業務上必要がある場合に、本人の能力、経験、在職中の勤務状況及び健康状態等を勘案して選考のうえ再雇用することができる。ただし、再雇用の期間は1年以内とし、その期間は通算して5年を超えることはできない。

3 前項に規定する者の再雇用については、第8条、第9条の規定は適用しない。

(手 続)

第4条 再雇用を希望する者は、所定の再雇用願により、定年に達する日の属する年度の7月末日までに、所属長を経て、理事長にその旨を申出なければならない。

2 前項の規定による申出を行った教職員について、その申出時において第3条第1項に掲げる事由に該当しない見込みがあることが認められる場合には、定年に達する日の属する年度の12月末日までに、理事長は再雇用の内定を通知する。ただし、当該教職員について定年退職日までの間に第3条第1項に掲げる事由に該当することとなった場合は、理事長はその内定を取り消すものとする。

(任 用)

第5条 前条第2項の規定による再雇用の内定が取り消されなかつた教職員については、理事長が再雇用教職員の採用を決定する。

2 再雇用教育職員の職及び職務は、大学にあつては、学校法人八戸工業大学の組織等に関する規程（以下「組織等規程」という。）第15条から第21条、第23条及び第25条を、高等学校及び中学校にあつては、第26条から第28条及び第30条から第31条を、幼稚園にあつては第35条から第37条を準用する。

3 再雇用事務職員、再雇用技術職員、再雇用技能職員及び再雇用労務職員の職は、別表2に定める職とし、原則として管理職に任用しない。

4 前項に定める職の職務は、次の各号のとおりとする。

一 再雇用事務職員

培われた知識、経験又は能力に応じた重要な事務その他の業務に従事する。

二 再雇用技術職員

- 培われた知識、経験又は能力に応じた重要な技術その他の業務に従事する。
- 三 再雇用技能職員及び再雇用労務職員
培われた知識、経験又は能力に応じた重要な技能その他の業務に従事する。

(再雇用契約)

第6条 理事長と再雇用教職員は、4月1日から翌年3月31日までの1年間を雇用期間とする雇用契約（以下「再雇用契約」という。）を締結する。

(再雇用契約の更新)

第7条 再雇用教職員が前条の雇用期間満了後も更に勤務の継続を希望し、第3条第1項に掲げる事由に該当しない場合には、再雇用契約を更新することができる。

2 下表「生年月日による区分」に該当する教職員にかかる「基準適応年齢」以後の前項の規定の適用は、第3条第1項に掲げる事由に該当しない場合に加え、次項の規定によるものとする。

生年月日による区分	基準適用年齢
昭和28年4月2日～昭和30年4月1日までの間に生まれた者	61歳
昭和30年4月2日～昭和32年4月1日までの間に生まれた者	62歳
昭和32年4月2日～昭和34年4月1日までの間に生まれた者	63歳
昭和34年4月2日～昭和36年4月1日までの間に生まれた者	64歳

3 前項で規定する基準適用年齢を超えて行う更新契約については、労使協定の定めるところにより、更新前の再雇用期間満了日において次の各号のいずれの基準をも満たす者のみを対象とする。ただし、再雇用を希望する者の能力適性を発揮できる職に欠員がないと理事長が認める場合は、更新契約を行わないものとする。

- 一 雇用期間満了日から起算して過去3年間の年度ごとの出勤率が9割以上であること
- 二 雇用期間満了日から起算して過去10年間に懲戒処分を受けたことがないこと
- 三 雇用期間満了日の直近3か年の定期健康診断結果を産業医が判断し就業上支障がないと認められること
- 四 法人における勤続期間が通算20年以上であること
- 五 誠実かつ協調性があると理事長が認める者であること
- 六 教育職員にあっては、学級担任を務めた期間が通算10年以上であること、又は教育上の専門的な知識・能力若しくは必要な技能を有する者であること

4 第5条の規定は、本条の規定により再雇用契約を更新する場合について準用する。

(特に必要とする者の再雇用)

第8条 理事長は、前条第3項に該当しない者であっても、高度な知識、経験、技術・技能を有することにより理事長が特に必要と認めた者については、再雇用することがある。

(勤務条件等)

第9条 再雇用教職員の所属、職務内容、勤務時間、始業時刻・終業時刻及び休憩時間その他の勤務条件は、健康状態、職務経験及び能力並びに定年退職時又は雇用期間満了時の担当業務の業務量及び法人の財政状況及び要員の必要性等を勘案して定める。

(給 与)

第10条 再雇用教職員の給与は、次項に定めるものを除き、給与規程を準用する。

2 再雇用教職員の給料月額、別表1に掲げる給料表のとおりとし、諸手当については次の各号のとおりとする。

- 一 通勤手当、時間外勤務手当及び休日勤務手当を支給することとし、その取扱いは給与規程を準用する。
- 二 学級を担任する教育職員については、学級担任手当を支給できるものとし、支給額は給料月額の4%を乗じて得た額とする。
- 三 期末手当は、フルタイム勤務者及び短時間勤務者に対し、勤勉手当は、フルタイム勤務者に対して支給する。ただし、非常勤勤務者へは支給しない。

四 前号で定める期末手当及び勤勉手当の支給日、基準日（在職期間又は勤務期間の計算の基準となる日）並びに支給月数は、青森県「職員の給与に関する条例」及び青森県人事委員会の定めを参考にして理事長が決定する。

五 扶養手当、住居手当、教職調整額、調整手当は支給しない。

（退職手当）

第11条 再雇用教職員に、退職手当は支給しない。

（職員宿舍の貸与）

第12条 再雇用教職員には、職員宿舍を貸与することができる。

（準用規程）

第13条 再雇用教職員の勤務その他就業に関する事項については、この規程に定めるほか、就業規則の規定を準用する。ただし、同規則第8条（休職の種類）、第9条（休職期間）、第9条の2（休職期間中の連絡）、第10条（復職）、第14条（退職手当）、第21条（勤務時間）、第22条（始業時刻・終業時刻及び休憩時間）、第38条（私傷病復活年次休暇）及び第44条（給与の支給）は準用しない。

2 前項の規定にかかわらず、再雇用教育職員の非常勤勤務者にあつては、学校法人八戸工業大学非常勤講師就業規則を準用する。ただし、同規則第5条（採用）、第6条（提出書類）、第14条（給料）及び第28条（年次休暇）は準用しない。

（その他）

第14条 この規程に定めのない事項及びこの規程の運用にあたって特別に必要な事項は、理事長が定める。

附 則

- 1 この規程は、平成18年4月1日より施行する。
- 2 次の表の左欄に掲げる期間における第7条第3項の規定の適用については、同項中「65歳」とあるのは、同表の左欄に掲げる区分に応じそれぞれ同表の右欄に掲げる字句とする。

生年月日	上限年齢
昭和21年4月2日～昭和22年4月1日	63歳
昭和22年4月2日～昭和24年4月1日	64歳

- 3 この規程施行の日から、従前の「学校法人八戸工業大学嘱託規程」は廃止する。
- 4 この規程施行の際、現に、嘱託として雇用されている者については、平成19年4月1日よりこの規程を適用するものとする。

附 則

この規程は、平成22年4月1日より施行する。

附 則

- 1 この規程は、平成25年4月1日より施行する。
- 2 この規程の施行前に定年退職し、この規程の施行の際再雇用の適用を受けている者については、なお従前の例による。

附 則

この規程は、平成30年4月1日より施行する。

附 則

この規程は、平成31年4月1日より施行する。

附 則

この規程は、令和2年4月1日より施行する。

附 則

この規程は、令和3年4月1日より施行する。

別表 1

フルタイム勤務者（週40時間勤務）

職務の級 職 種	職務の級			
	1級	2級	3級	4級
大学教員	280,400	291,500	313,400	397,400
高校・中学校教員	231,700	272,000	328,800	412,900
幼稚園教員	207,600	268,800	322,100	402,900
事務・技術職員	172,700	212,900	252,900	272,300
技能職員	172,700	212,900	252,900	272,300
労務職員	169,800			

短時間勤務者（週30時間勤務）

職務の級 職 種	職務の級			
	1級	2級	3級	4級
大学教員	210,300	218,600	235,000	298,000
高校・中学校教員	173,800	203,900	246,600	309,600
幼稚園教員	167,100	201,600	241,500	302,100
事務・技術職員	139,100	159,600	189,600	204,200
技能職員	139,100	159,600	189,600	204,200

短時間勤務者（週20時間勤務）

職務の級 職 種	職務の級			
	1級	2級	3級	4級
大学教員	140,200	145,700	156,600	198,700
高校・中学校教員	115,800	135,900	164,400	206,400
幼稚園教員	111,400	134,400	161,000	201,400
事務・技術職員	92,700	106,400	126,400	136,100
技能職員	92,700	106,400	126,400	136,100

備考（一）非常勤勤務者（週20時間未満勤務）の時間単価は、1,000円とする。

別表 2

職種	職名					
	主事	主任	主査	主幹	副参事	参事
事務職員						
技術職員	技師	主任技師				
技能職員	工師	主任技師				
労務職員	警備員					